

Ⅲ 調査結果

1 第1回アンケートの調査結果 (インターネット調査)

1.1 川崎市の緑について

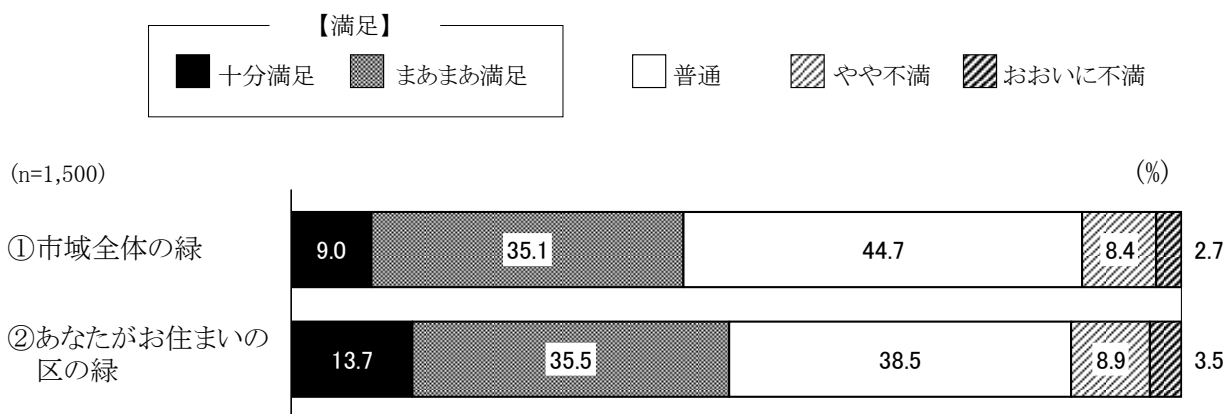
(1) 川崎市の緑に対する満足度

Q 1. あなたは、川崎市の緑に満足していますか。

- ① 市域全体の緑
- ② あなたがお住まいの区の緑

「十分満足」と「まあまあ満足」を合計した【満足】は「市域全体の緑」では44.1%、「あなたがお住まいの区の緑」では49.1%となっている。

【図表 1】川崎市の緑に対する満足度

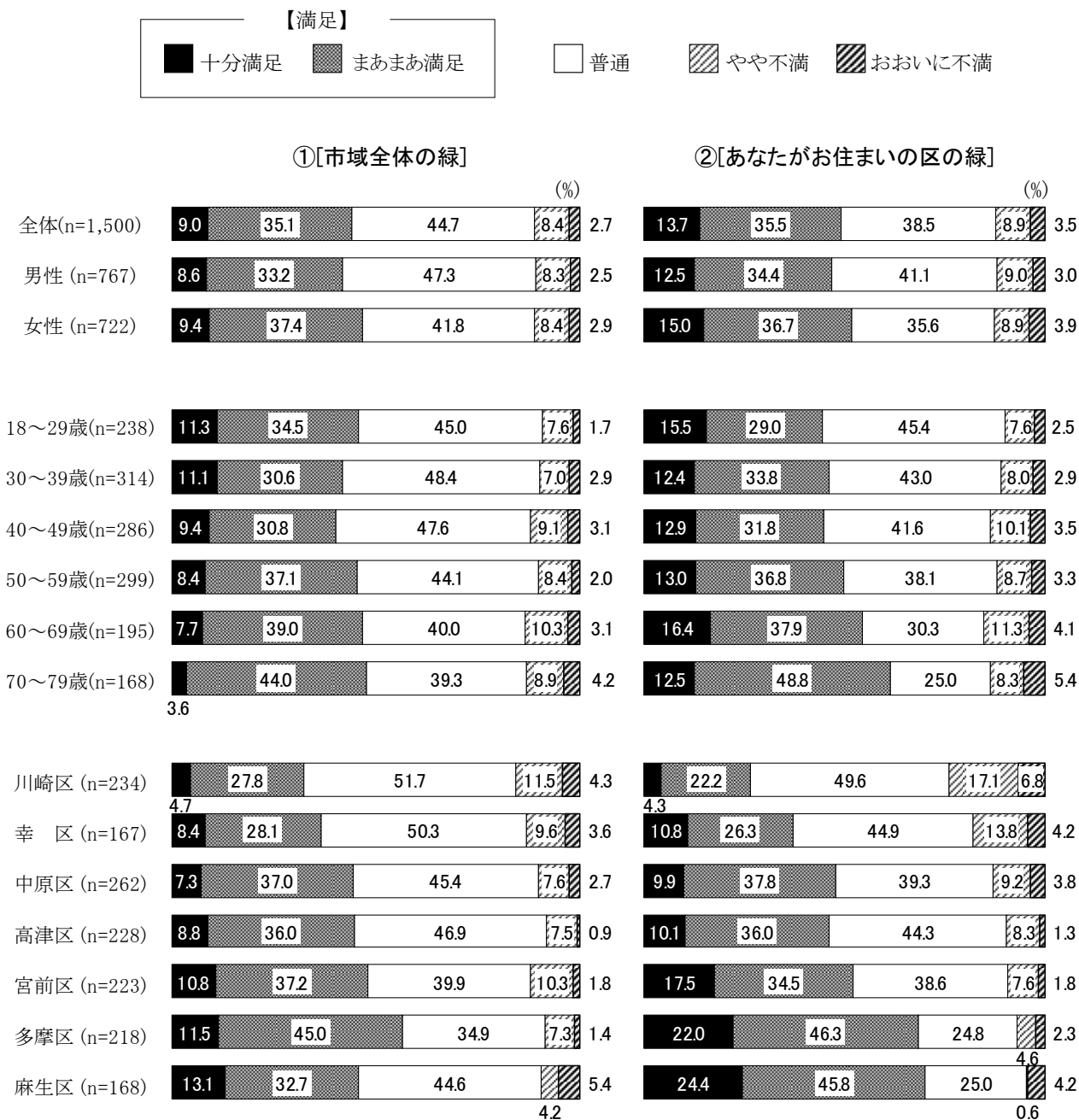


性別に見ると、【満足】の割合は、[市域全体の緑]、[あなたがお住まいの区の緑]ともに男性よりも女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、【満足】は、[あなたがお住まいの区の緑]ではおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、【満足】は、[市域全体の緑]では多摩区(56.4%)が5割を超えて最も高くなっている。[あなたがお住まいの区の緑]では麻生区(70.2%)、多摩区(68.3%)が約7割と高く、川崎区(26.5%)では3割を下回った。

【図表 2】川崎市の緑に対する満足度（性別、年齢別、居住区別）



①[市域全体の緑]

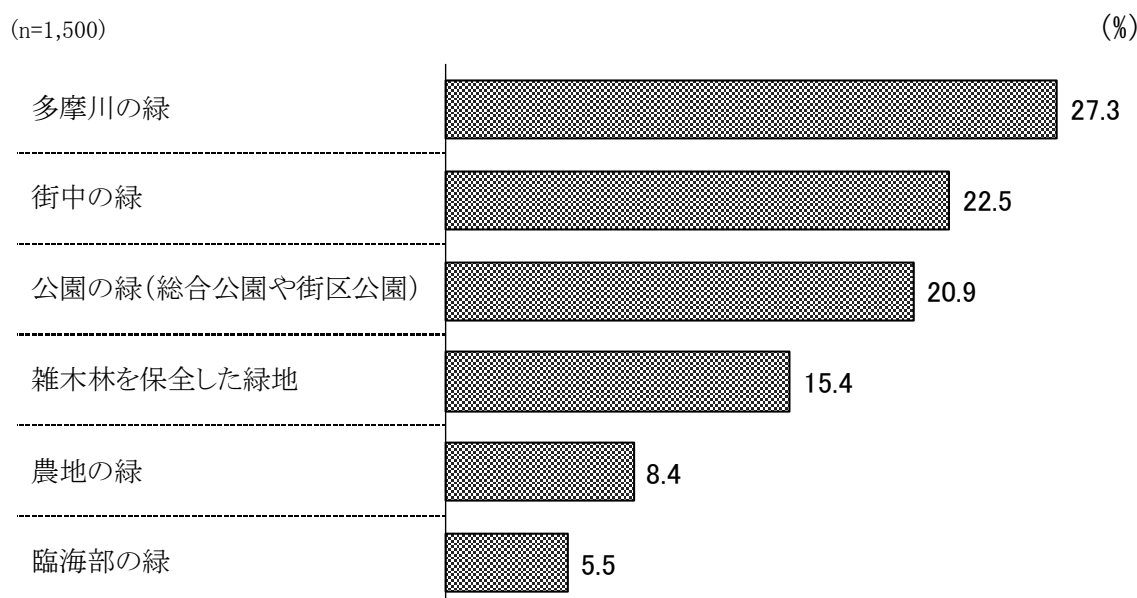
②[あなたがお住まいの区の緑]

(2) 保全した方がいいと思う緑

Q2. 川崎市には多様な緑があります。あなたは以下のどのような緑を最も保全した方がいいと思いますか。

「多摩川の緑」が27.3%で最も高く、次いで「街中の緑」(22.5%)、「公園の緑(総合公園や街区公園)」(20.9%)、「雑木林を保全した緑地」(15.4%)と続いている。

【図表 3】 保全した方がいいと思う緑

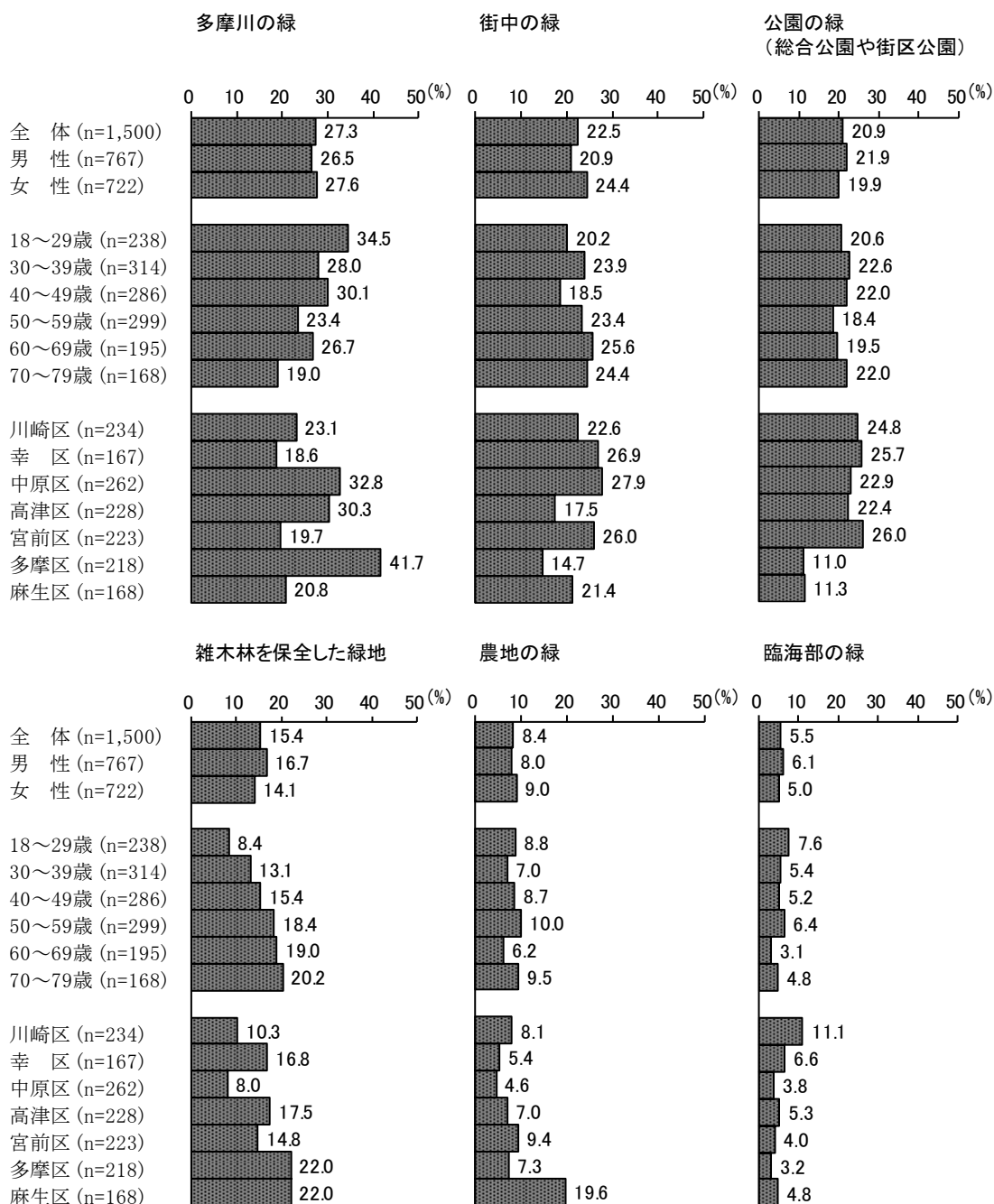


性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「多摩川の緑」と「臨海部の緑」は18～29歳が最も高く、「雑木林を保全した緑地」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「多摩川の緑」は多摩区が41.7%と最も高く、「公園の緑（総合公園や街区公園）」は多摩区（11.0%）と麻生区（11.3%）を除いた居住区で2割を超えている。「雑木林を保全した緑地」は多摩区と麻生区（ともに22.0%）が他の居住区と比較して高くなっている。また、「農地の緑」は麻生区（19.6%）が最も高く、「臨海部の緑」は川崎区（11.1%）が最も高い。

【図表 4】 保全した方がいいと思う緑（性別、年齢別、居住区別）



(3) 緑に関する取組について

Q3. これまで川崎市では、さまざまな緑に関する取組をおこなってきました。それらの中で、あなたが知っていた取組はどれですか。また、今後さらに期待する取組はどれですか。

- ① 知っていた取組
- ② 今後さらに期待する取組

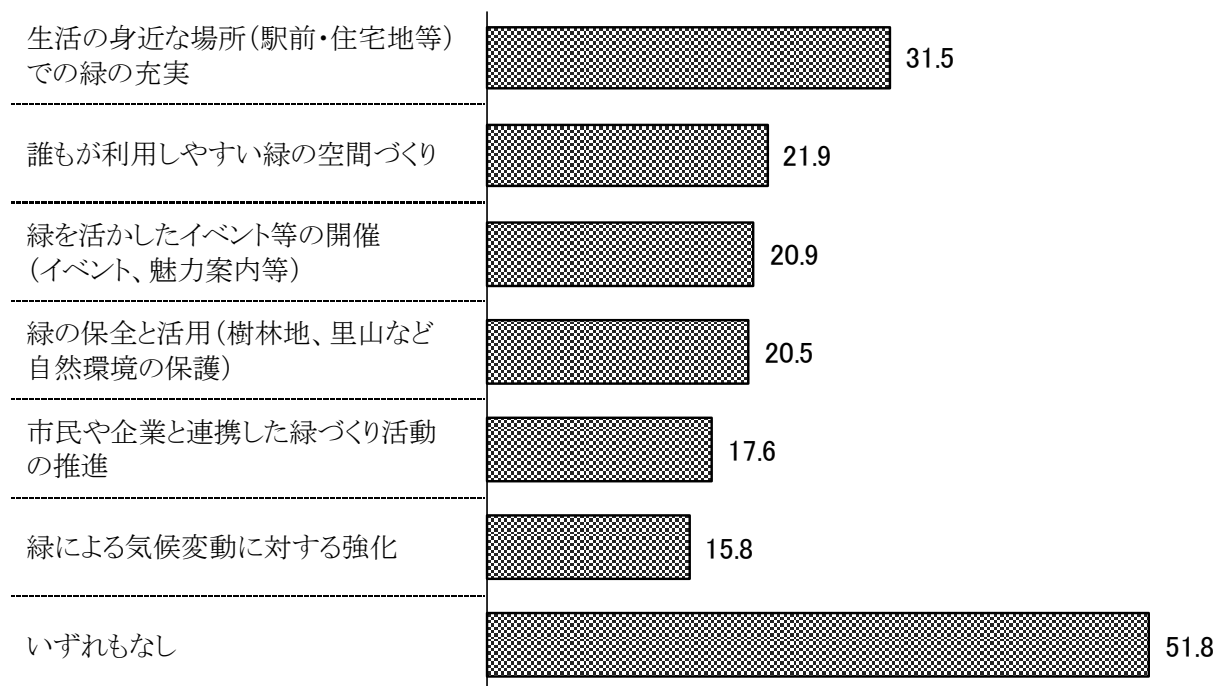
① 知っていた取組

知っていた取組では、「生活の身近な場所（駅前・住宅地等）での緑の充実」が31.5%で最も高く、次いで「誰もが利用しやすい緑の空間づくり」（21.9%）、「緑を活かしたイベント等の開催（イベント、魅力案内等）」（20.9%）と続いている。一方で、「いずれもなし」（51.8%）が5割を上回った。

【図表 5】知っていた取組（複数回答）

複数回答 (n=1,500)

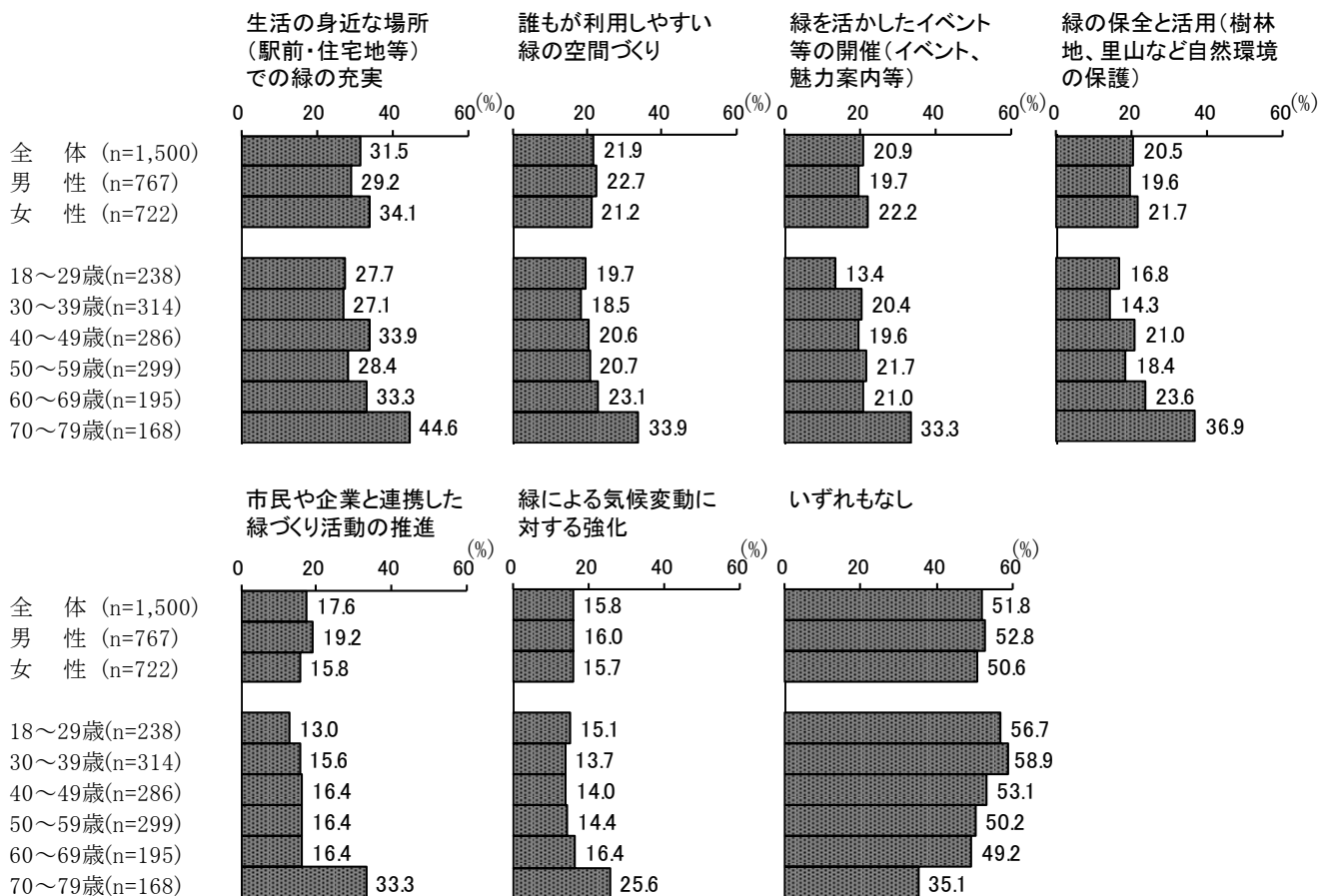
(%)



知っていた取組について、性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、すべての取組において70～79歳が最も高くなっている。一方で、「いずれもなし」は50歳代以下で5割を上回った。

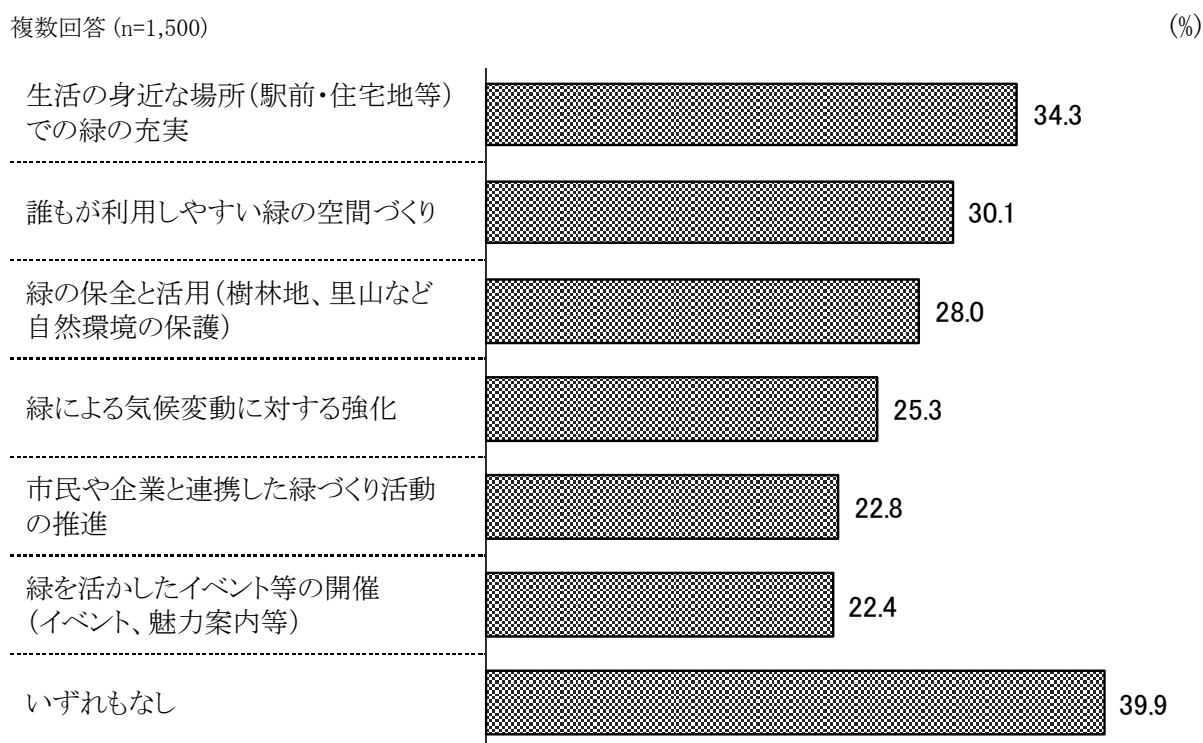
【図表6】知っていた取組（複数回答）
（性別、年齢別）



② 今後さらに期待する取組

今後さらに期待する取組では、「生活の身近な場所（駅前・住宅地等）での緑の充実」が34.3%で最も高く、次いで「誰もが利用しやすい緑の空間づくり」(30.1%)、「緑の保全と活用（樹林地、里山など自然環境の保護）」(28.0%)と続いている。一方で、「いずれもなし」(39.9%)が約4割を占めた

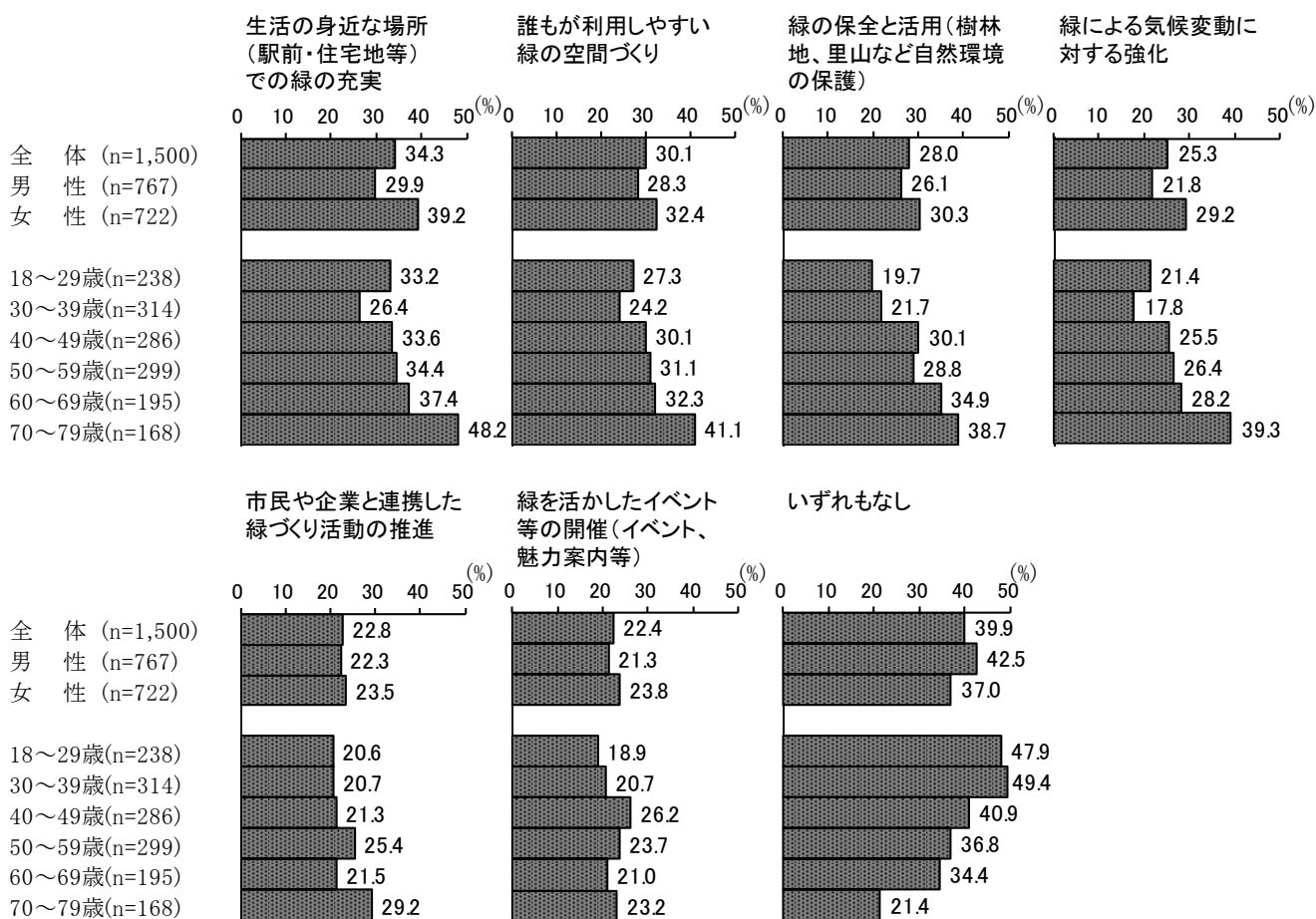
【図表 7】 今後さらに期待する取組（複数回答）



今後さらに期待する取組について性別に見ると、「生活の身近な場所（駅前・住宅地等）での緑の充実」と「緑による気候変動に対する強化」は男性よりも女性の方が7ポイント以上高く、「いずれもなし」は女性よりも男性の方が5.5ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「緑を活かしたイベント等の開催（イベント、魅力案内等）」は40～49歳（26.2%）が最も高いが、その他の取組では70～79歳が最も高くなっている。また、「いずれもなし」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 8】 今後さらに期待する取組（複数回答）
（性別、年齢別）



(4) 緑に関する活動について

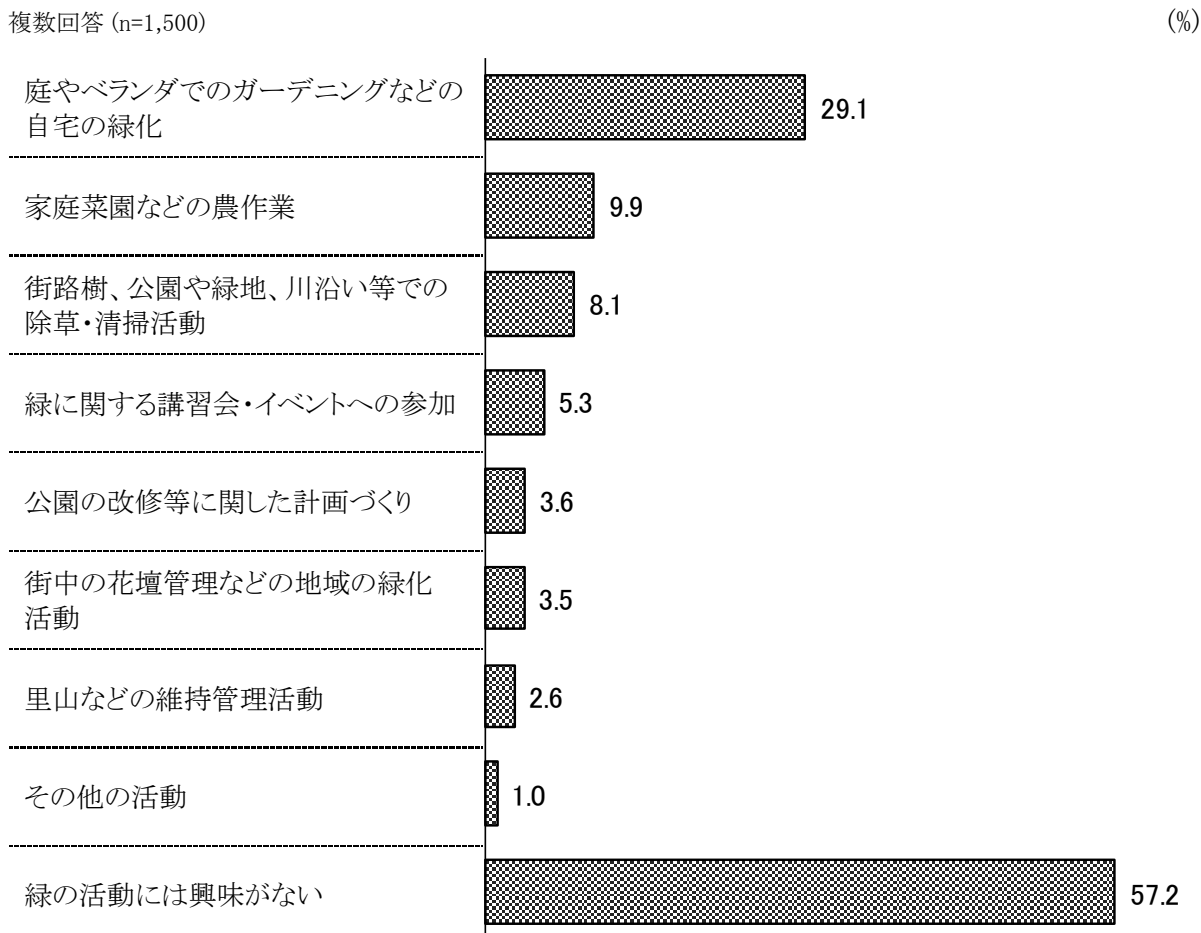
Q4. あなた自身の緑に関する活動についてうかがいます。
あなたが現在おこなっている緑に関する活動はありますか。また、今後取り組みたい活動はありますか（継続して取り組む方もご回答ください）。

- ① 現在行っている活動
- ② 今後取り組みたい活動

① 現在行っている活動

現在行っている活動では、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」が29.1%で最も高く、次いで「家庭菜園などの農作業」(9.9%)、「街路樹、公園や緑地、川沿い等での除草・清掃活動」(8.1%)と続いている。一方で、「緑の活動には興味がない」(57.2%)が6割近くを占めた。

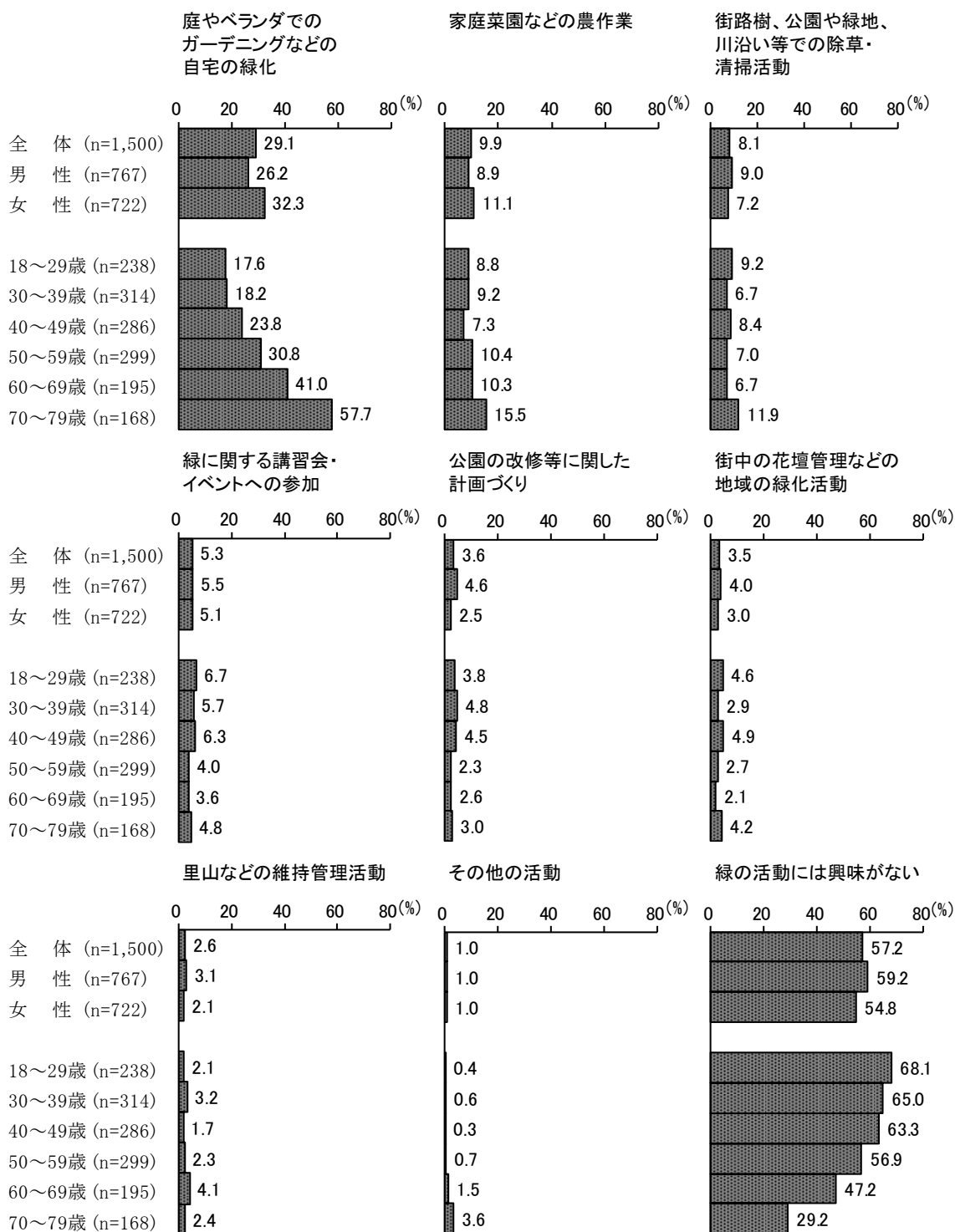
【図表 9】現在行っている活動（複数回答）



現在行っている活動について性別に見ると、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」の割合は男性よりも女性の方が6.1ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」は年齢が上がるほど割合が高く、「緑の活動には興味がない」は年齢が下がるほど割合が高くなっている。

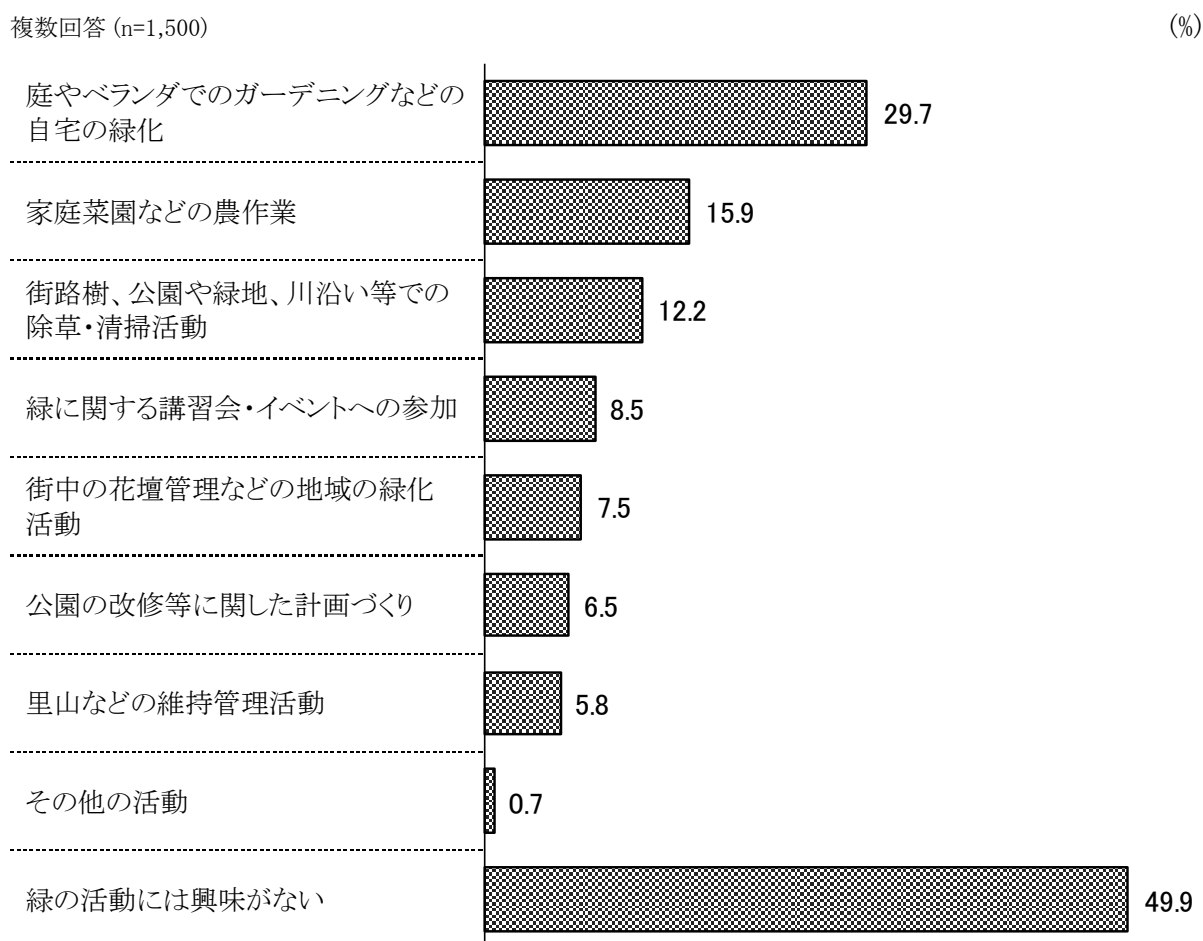
【図表 10】 現在行っている活動（複数回答）
（性別、年齢別）



② 今後取り組みたい活動

今後取り組みたい活動では、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」が29.7%で最も高く、次いで「家庭菜園などの農作業」(15.9%)、「街路樹、公園や緑地、川沿い等での除草・清掃活動」(12.2%)と続いている。一方で、「緑の活動には興味がない」(49.9%)が約5割を占めた。

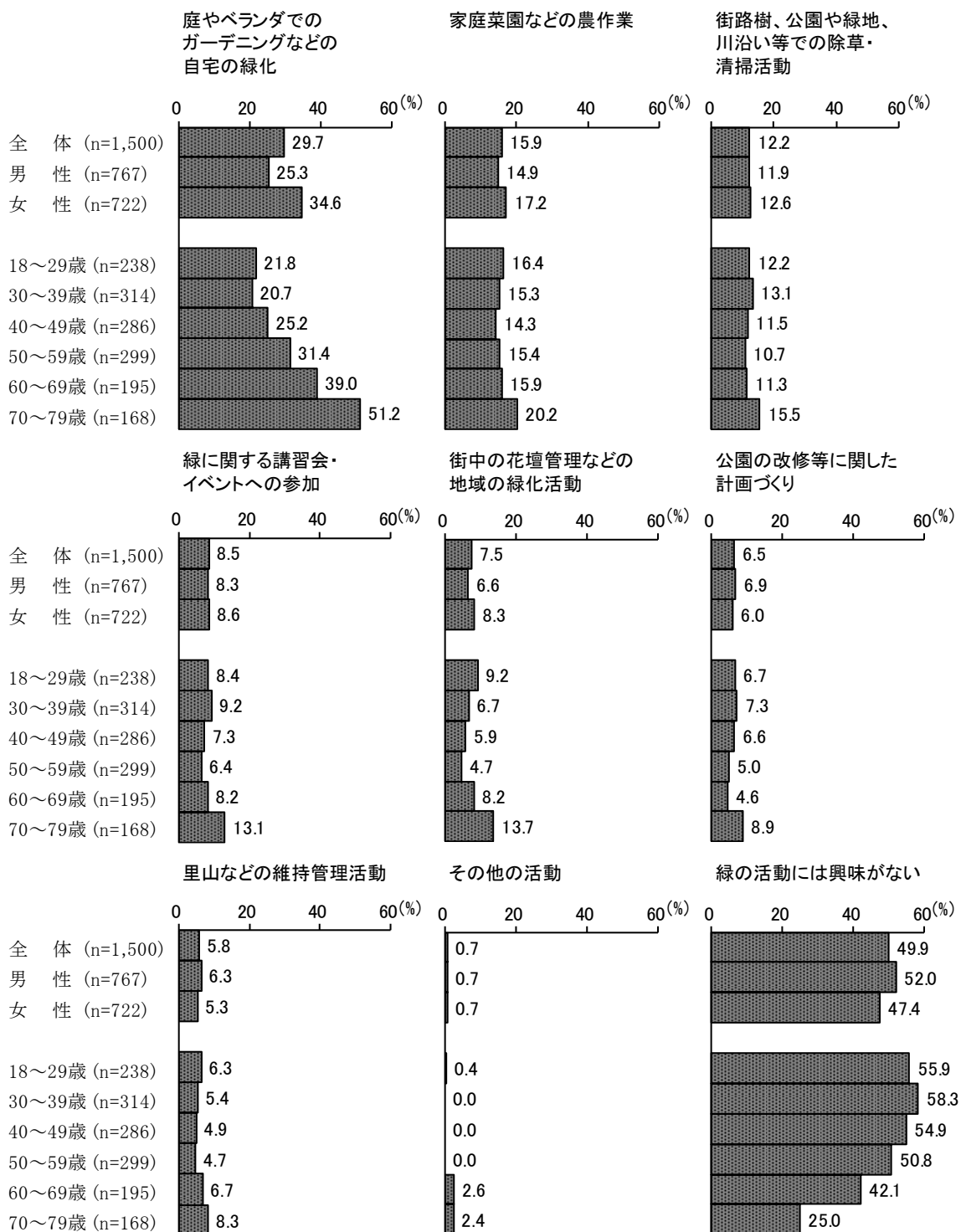
【図表 11】 今後取り組みたい活動（複数回答）



今後取り組みたい活動について性別に見ると、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」の割合は男性よりも女性の方が9.3ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「緑の活動には興味がない」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 12】 今後取り組みたい活動（複数回答）
（性別、年齢別）



(5) 緑化や自然保全に関するボランティア活動について

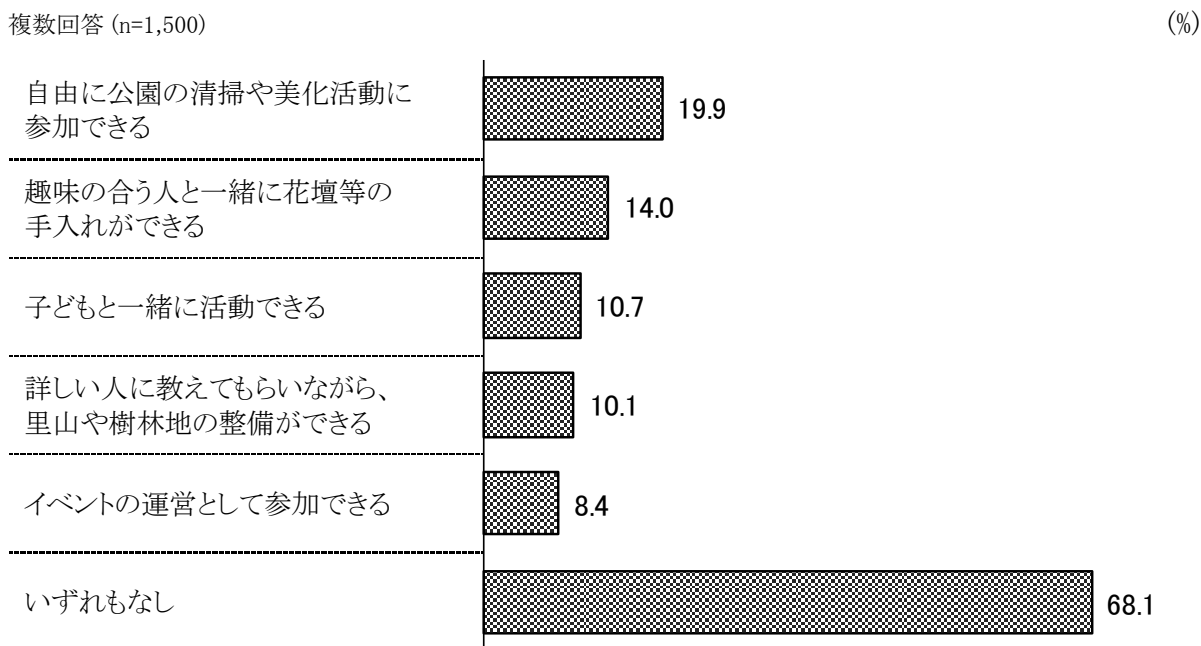
Q5. これまで川崎市では、緑化や自然保全に参加できる多彩なボランティア活動を展開してきました。それらの中で知っている活動はありますか。また、今後参加してみたい活動はありますか。

- ① 知っている活動
- ② 今後参加してみたい活動

① 知っているボランティア活動

知っているボランティア活動では、「自由に公園の清掃や美化活動に参加できる」が19.9%で最も高く、次いで「趣味の合う人と一緒に花壇等の手入れができる」(14.0%)、「子どもと一緒に活動できる」(10.7%)と続いている。一方で、「いずれもなし」(68.1%)が7割近くを占めた。

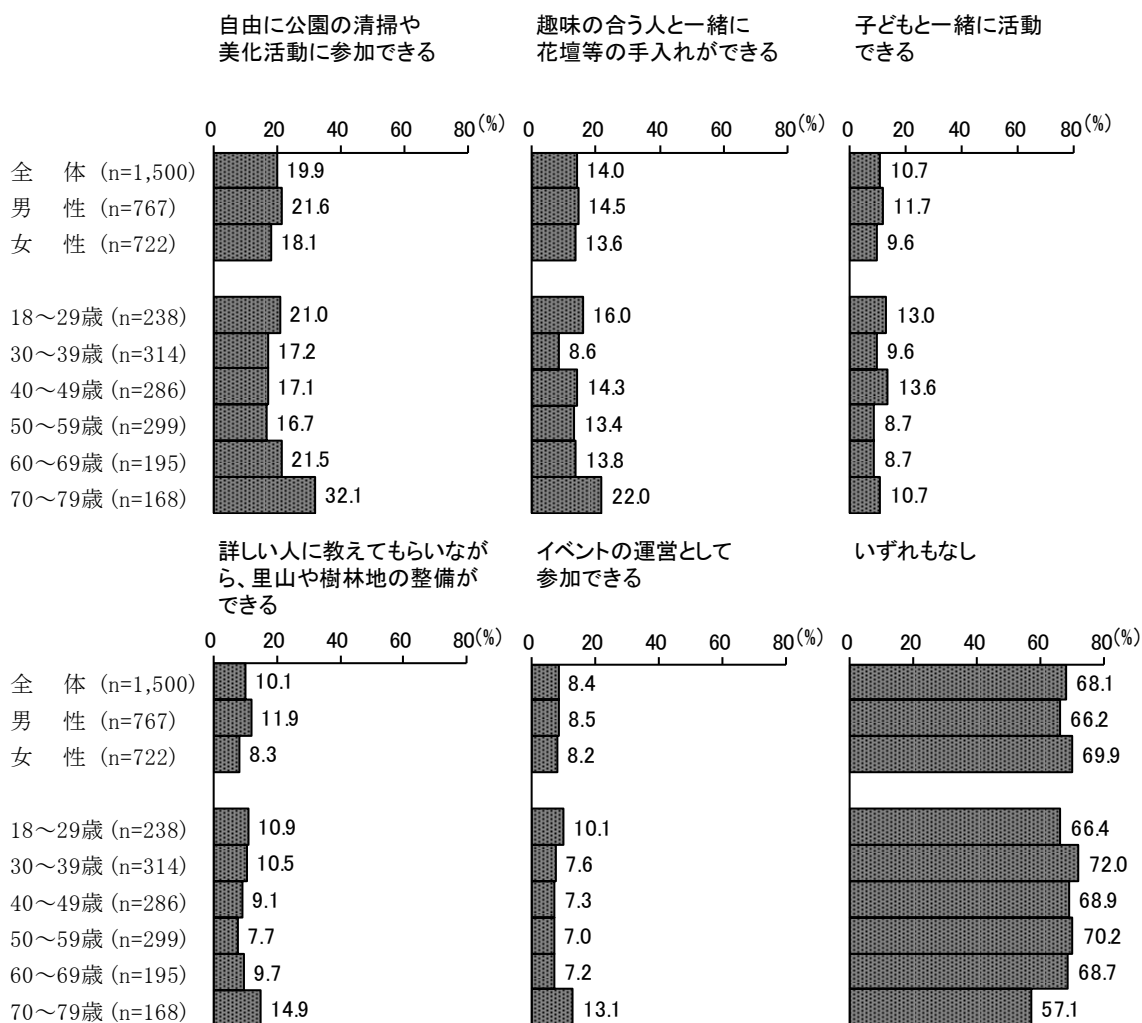
【図表 13】 知っているボランティア活動 (複数回答)



知っているボランティア活動について、性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「子どもと一緒に活動できる」は40～49歳(13.6%)が最も高く、その他の活動では70～79歳が最も高くなっている。一方で、「いずれもなし」は70～79歳(57.1%)が最も低い。

【図表 14】知っているボランティア活動（複数回答）
(性別、年齢別)



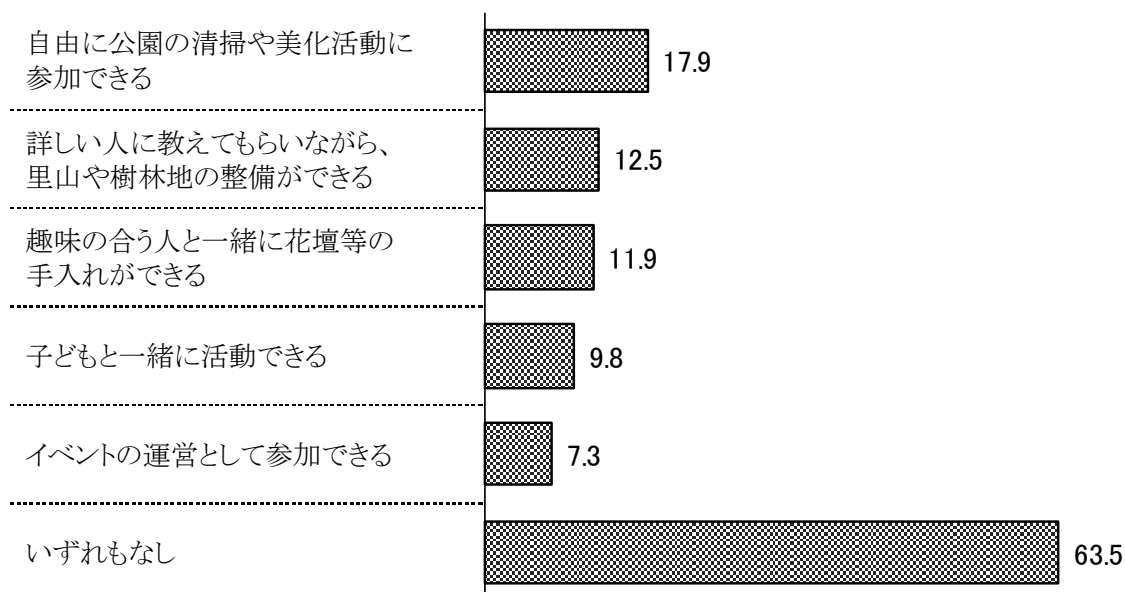
② 今後参加してみたいボランティア活動

今後参加してみたいボランティア活動では、「自由に公園の清掃や美化活動に参加できる」が17.9%で最も高く、次いで「詳しい人に教えてもらいながら、里山や樹林地の整備ができる」(12.5%)、「趣味の合う人と一緒に花壇等の手入れができる」(11.9%)と続いている。一方で、「いずれもなし」(63.5%)が6割を上回った。

【図表 15】 今後参加してみたいボランティア活動（複数回答）

複数回答 (n=1,500)

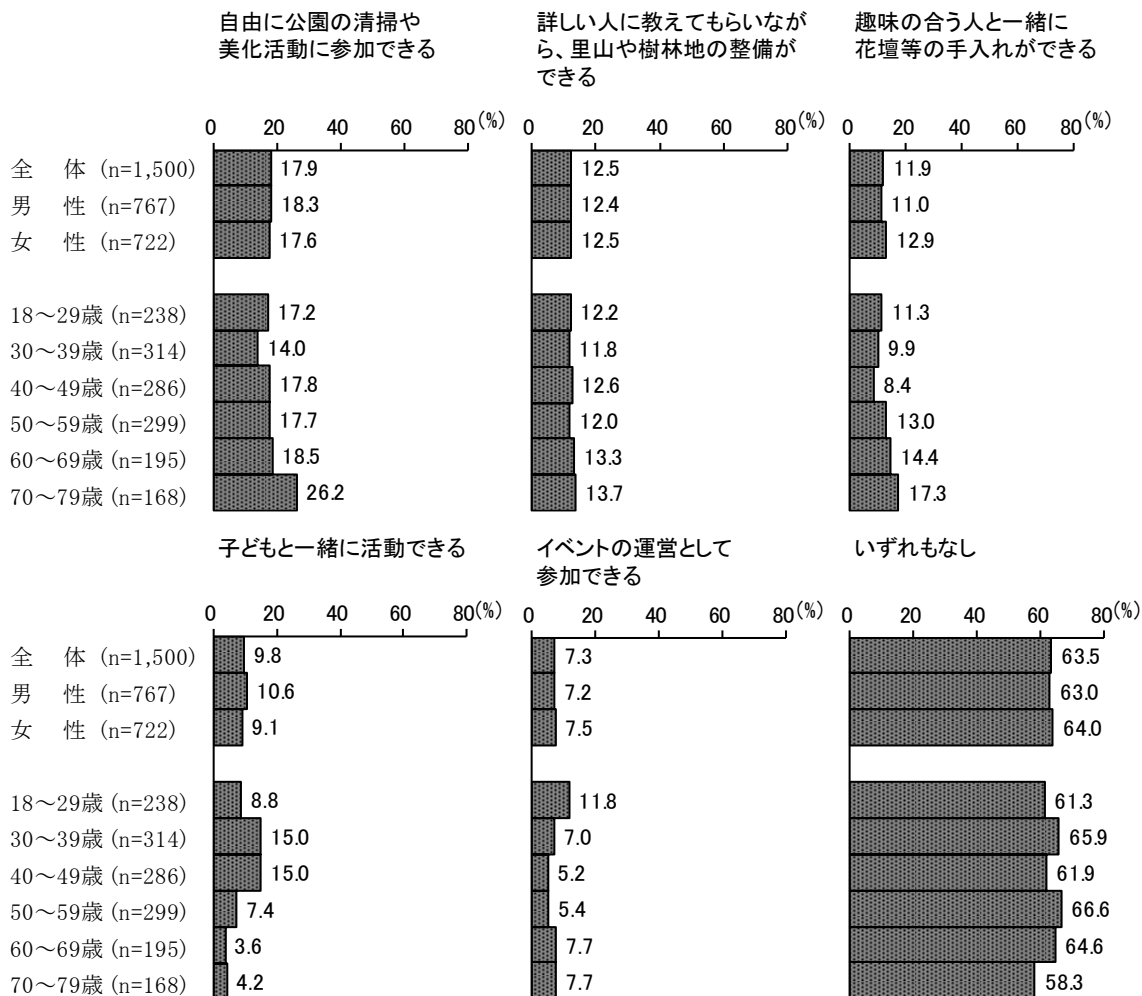
(%)



今後参加してみたいボランティア活動について、性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「自由に公園の清掃や美化活動に参加できる」は70～79歳(26.2%)が最も高く、「子どもと一緒に活動できる」は30～39歳と40～49歳(ともに15.0%)が最も高い。また、「イベントの運営として参加できる」は18～29歳(11.8%)が最も高くなっている。

【図表 16】 今後参加してみたいボランティア活動（複数回答）
（性別、年齢別）



(6) 緑に関する情報発信について

Q6. これまで、川崎市では多様なメディアを使用し、上記のような情報発信に取り組んできました。それらの中で、見たことがある情報発信はどれですか。また、今後さらに進めてほしい情報発信はどれですか。

- ①見たことのあるもの
- ②今後さらに進めてほしいもの

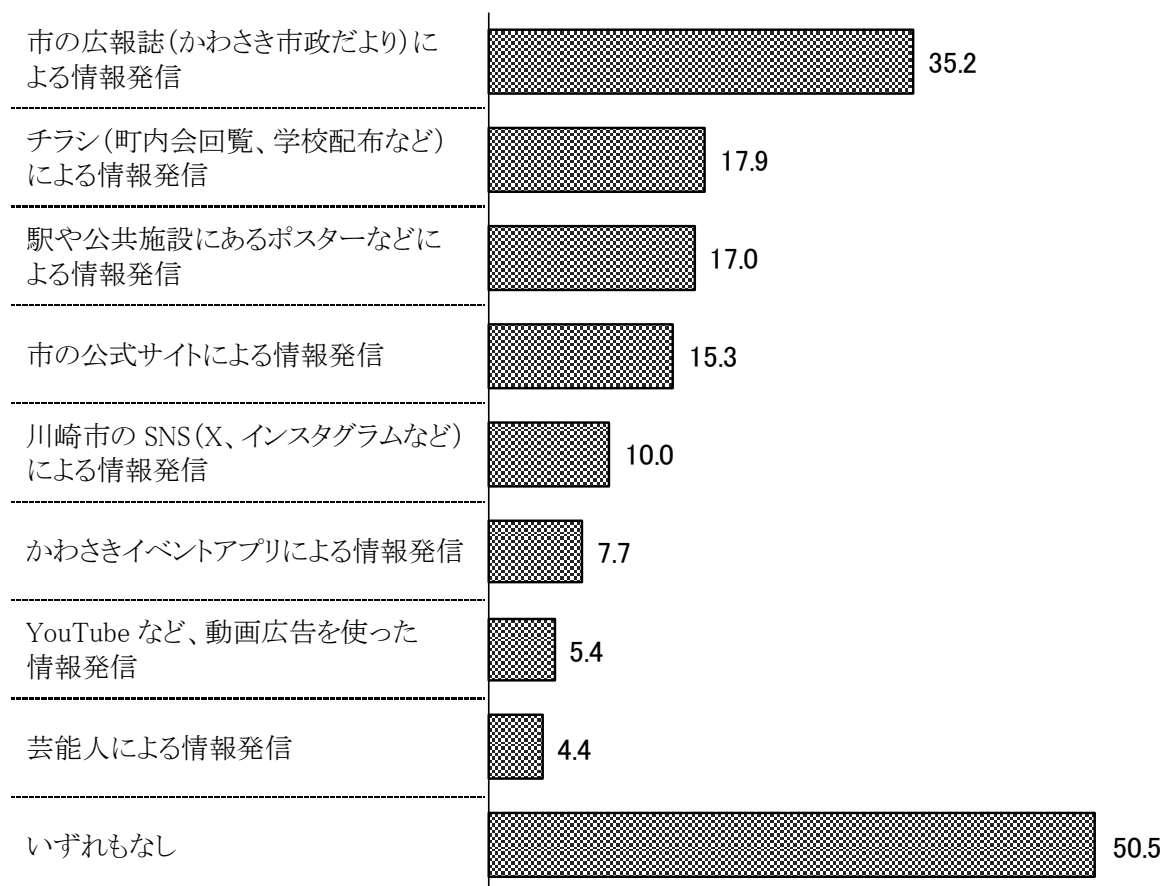
① 見たことのある情報発信

見たことのある情報発信では、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」が35.2%で最も高く、次いで「チラシ（町内会回覧、学校配布など）による情報発信」（17.9%）、「駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信」（17.0%）と続いている。一方で、「いずれもなし」（50.5%）が約5割を占めた。

【図表 17】 見たことのある情報発信（複数回答）

複数回答 (n=1,500)

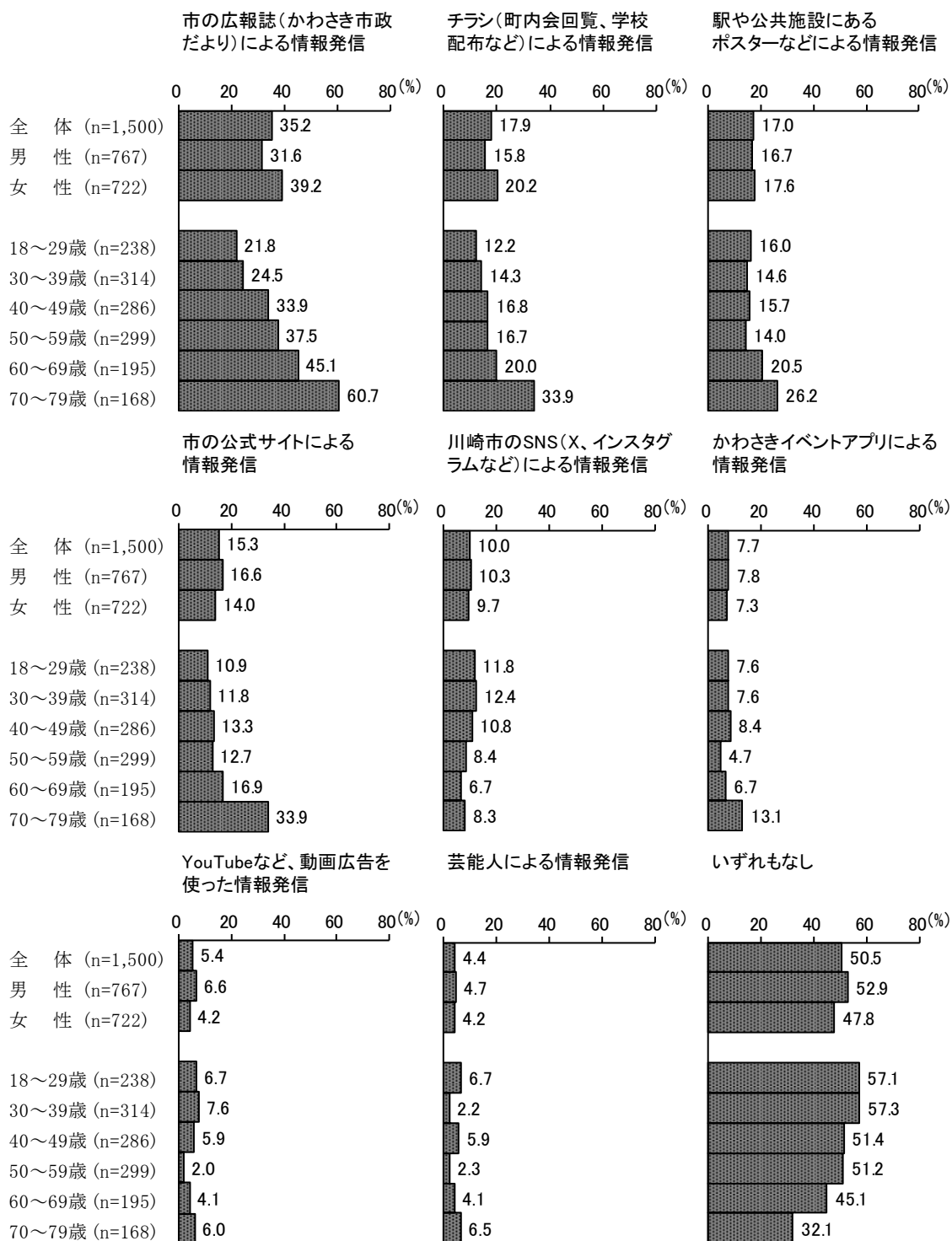
(%)



見たことのある情報発信について性別に見ると、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」では男性よりも女性の方が 7.6 ポイント高く、「いずれもなし」は女性よりも男性の方が 5.1 ポイント高い。

年齢別に見ると、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」、「チラシ（町内会回覧、学校配布など）による情報発信」、「駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信」、「市の公式サイトによる情報発信」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「いずれもなし」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

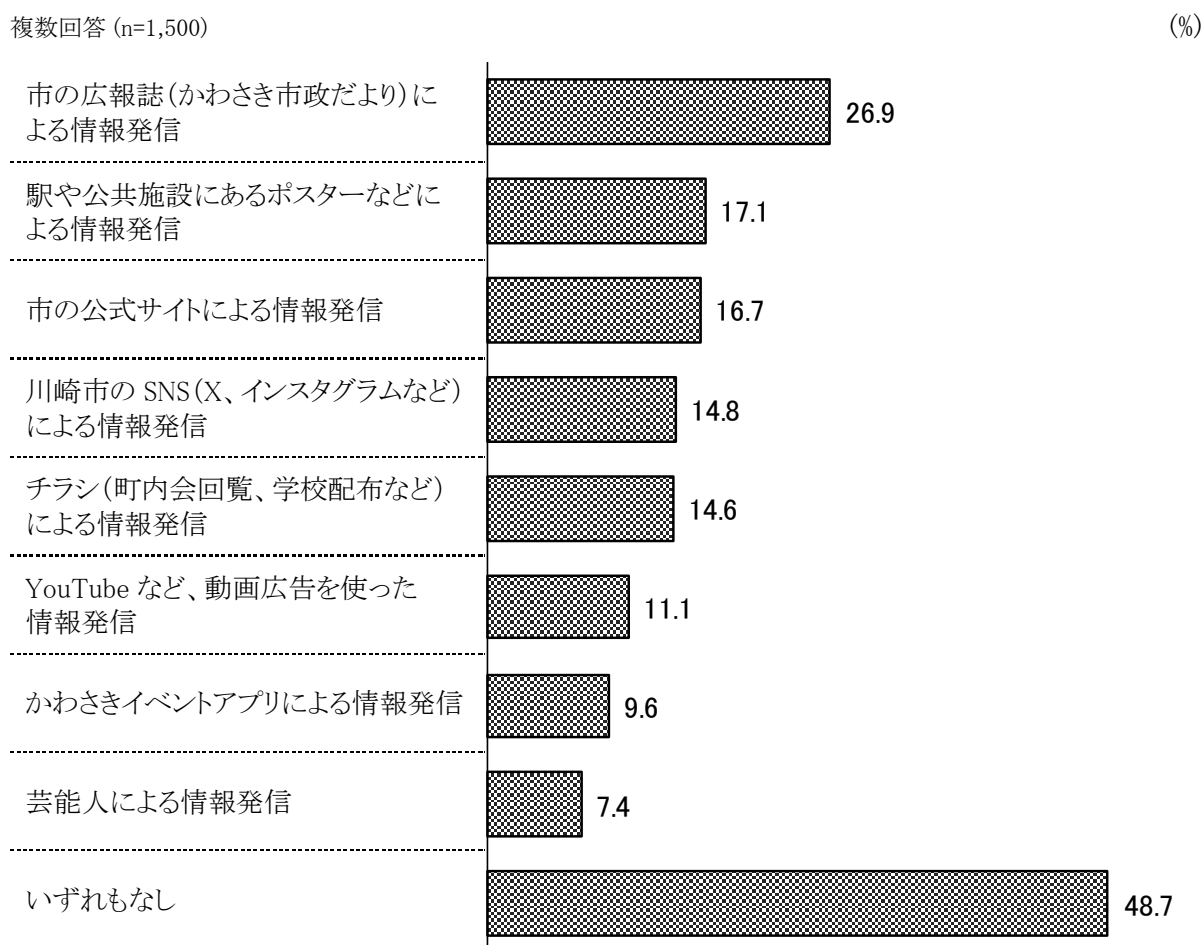
【図表 18】見たことのある情報発信（複数回答）
（性別、年齢別）



② 今後さらに進めてほしい情報発信

今後さらに進めてほしい情報発信では、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」が26.9%で最も高く、次いで「駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信」（17.1%）、「市の公式サイトによる情報発信」（16.7%）と続いている。一方で、「いずれもなし」（48.7%）が5割近くを占めた。

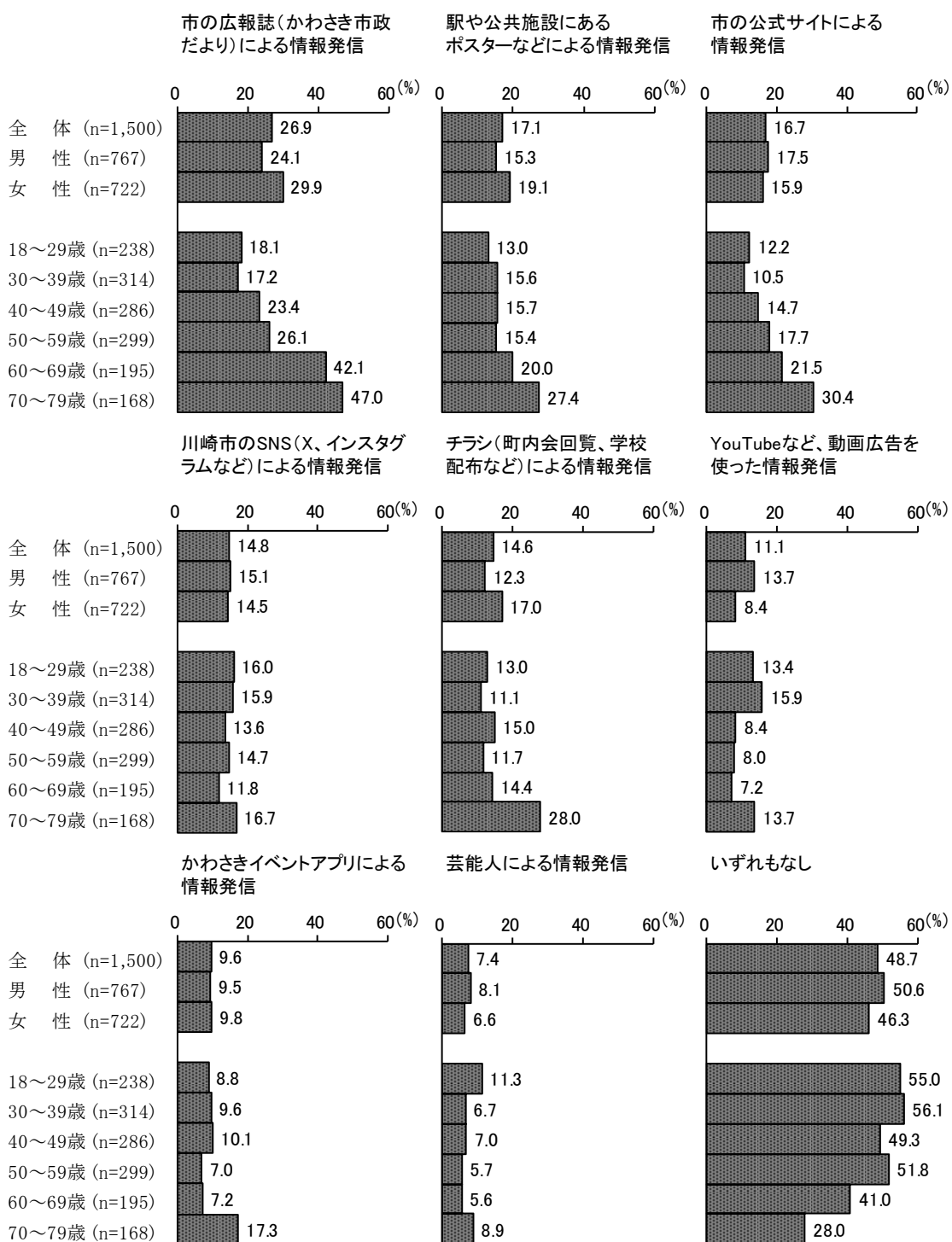
【図表 19】 今後さらに進めてほしい情報発信（複数回答）



今後さらに進めてほしい情報発信について性別に見ると、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」は男性よりも女性の方が5.8ポイント高く、「YouTube など、動画広告を使った情報発信」は女性よりも男性の方が5.3ポイント高い。

年齢別に見ると、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」、「駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信」、「市の公式サイトによる情報発信」、「チラシ（町内会回覧、学校配布など）による情報発信」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「いずれもなし」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 20】 今後さらに進めてほしい情報発信（複数回答）
（性別、年齢別）

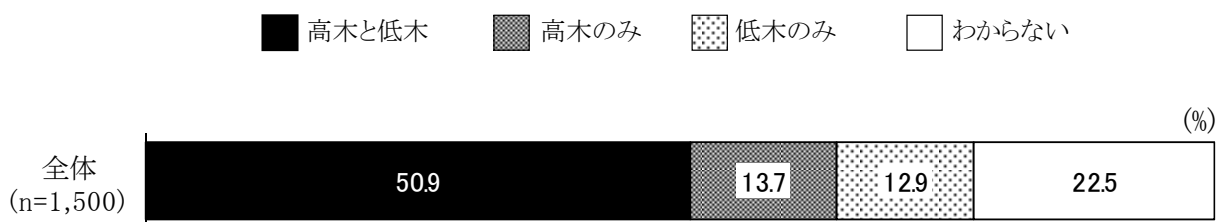


(7) 日常行動圏の街路樹について

Q7. 日常行動圏（通勤・通学・散歩等で習慣的に行動する範囲）で、川崎市が管理している「街路樹」を思い浮かべてください。
あなたの思い浮かべるその「街路樹」はどのような状況ですか。あてはまるものをお選びください。

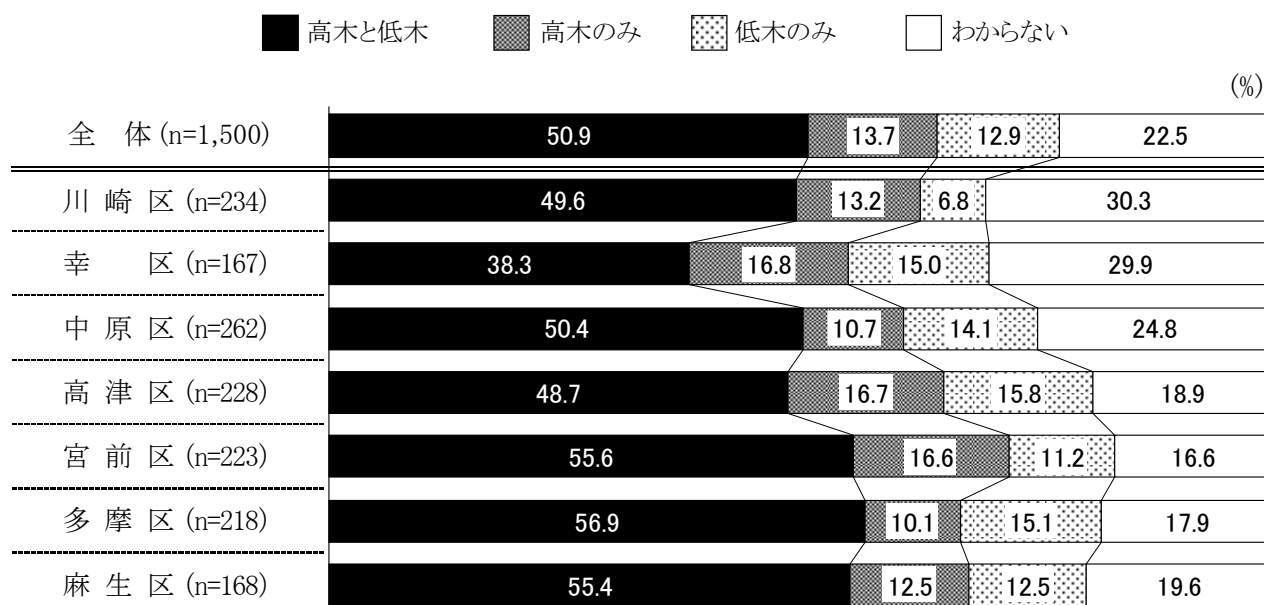
「高木と低木」が 50.9%と最も高く、次いで「高木のみ」(13.7%)、「低木のみ」(12.9%)と続いている。

【図表 21】 日常行動圏の街路樹について



居住区別に見ると、幸区は「高木と低木」を思い浮かべた人が 38.3%と、他の居住区と比べて低くなっている。

【図表 22】 日常行動圏の街路樹について（居住区別）



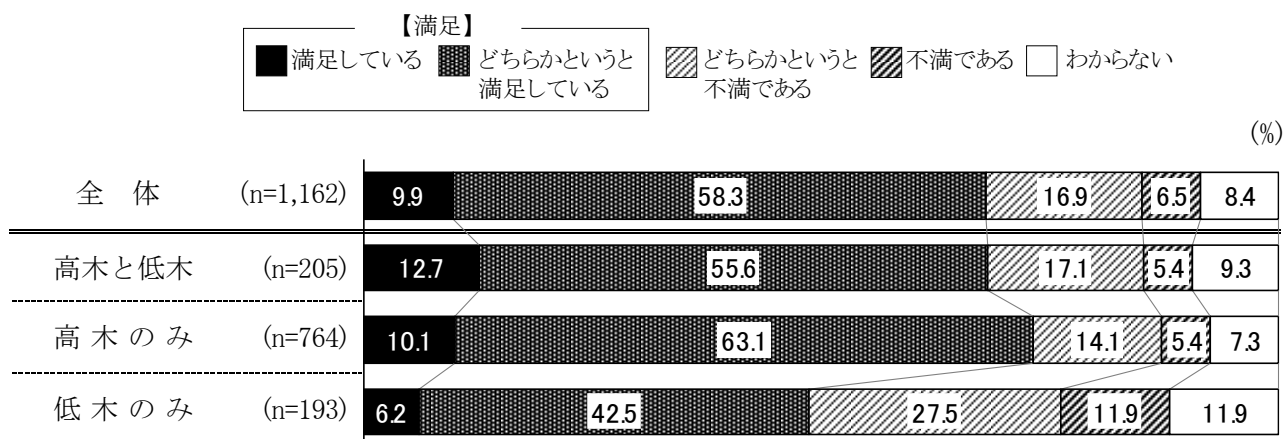
(8) 日常行動圏の街路樹に対する満足度

Q 8. あなたは、前問で思い浮かべた「街路樹」に対してどの程度満足していますか。

日常行動圏の街路樹について「わからない」と回答した人以外に街路樹の満足度について尋ねたところ、「どちらかという満足している」が 58.3%で最も高く、「満足している」(9.9%) と合計した【満足】は 68.2%であった。

Q 7の思い浮かべた街路樹の状況別で見ると、「満足している」は[高木と低木]を思い浮かべた人で 12.7%と最も高いが、「満足している」と「どちらかという満足している」を合計した【満足】は[高木のみ]を思い浮かべた人が 73.2%と最も高い。一方で、[低木のみ]を思い浮かべた人は【満足】が 48.7%と5割を下回った。

【図表 23】 日常行動圏の街路樹に対する満足度 (Q 7「思い浮かべた街路樹の状況」別)

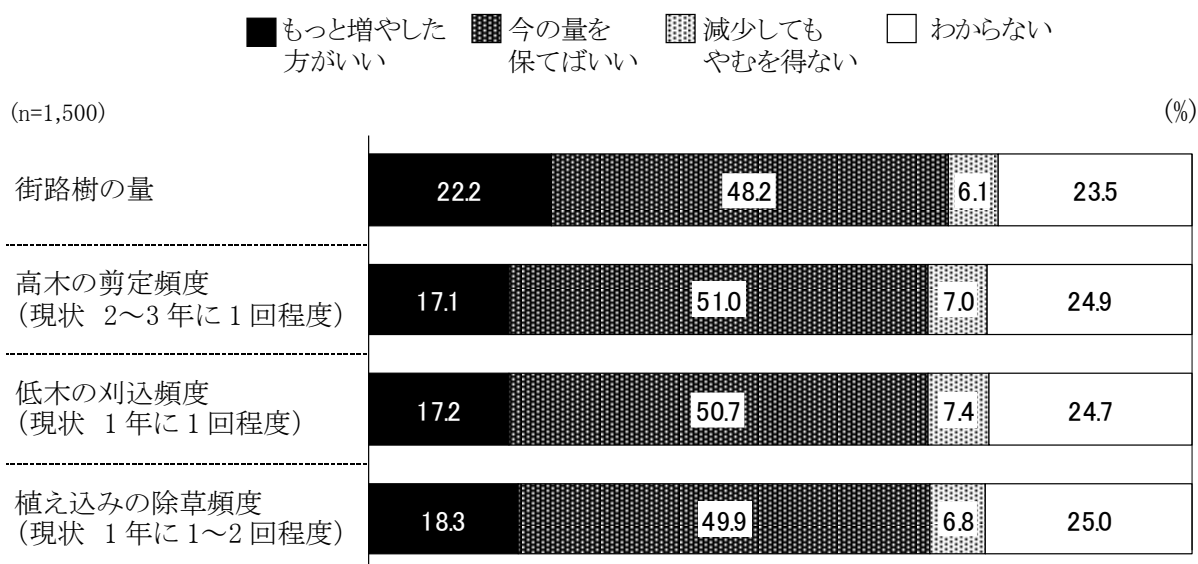


(9) 街路樹の量や維持管理頻度について

Q9. あなたは、川崎市の街路樹の量や維持管理頻度について、これからどのようなべきとお考えですか。
項目ごとにあてはまるものをお選びください。

いずれの項目においても「今の量を保てばいい」が5割前後で最も高くなっている。高木の剪定頻度、低木の刈込頻度及び植え込みの除草頻度に対する市民の意識に大きな偏りはないものの、「街路樹の量」では「もっと増やした方がいい」が22.2%と、維持管理頻度の項目と比べて高くなっている。

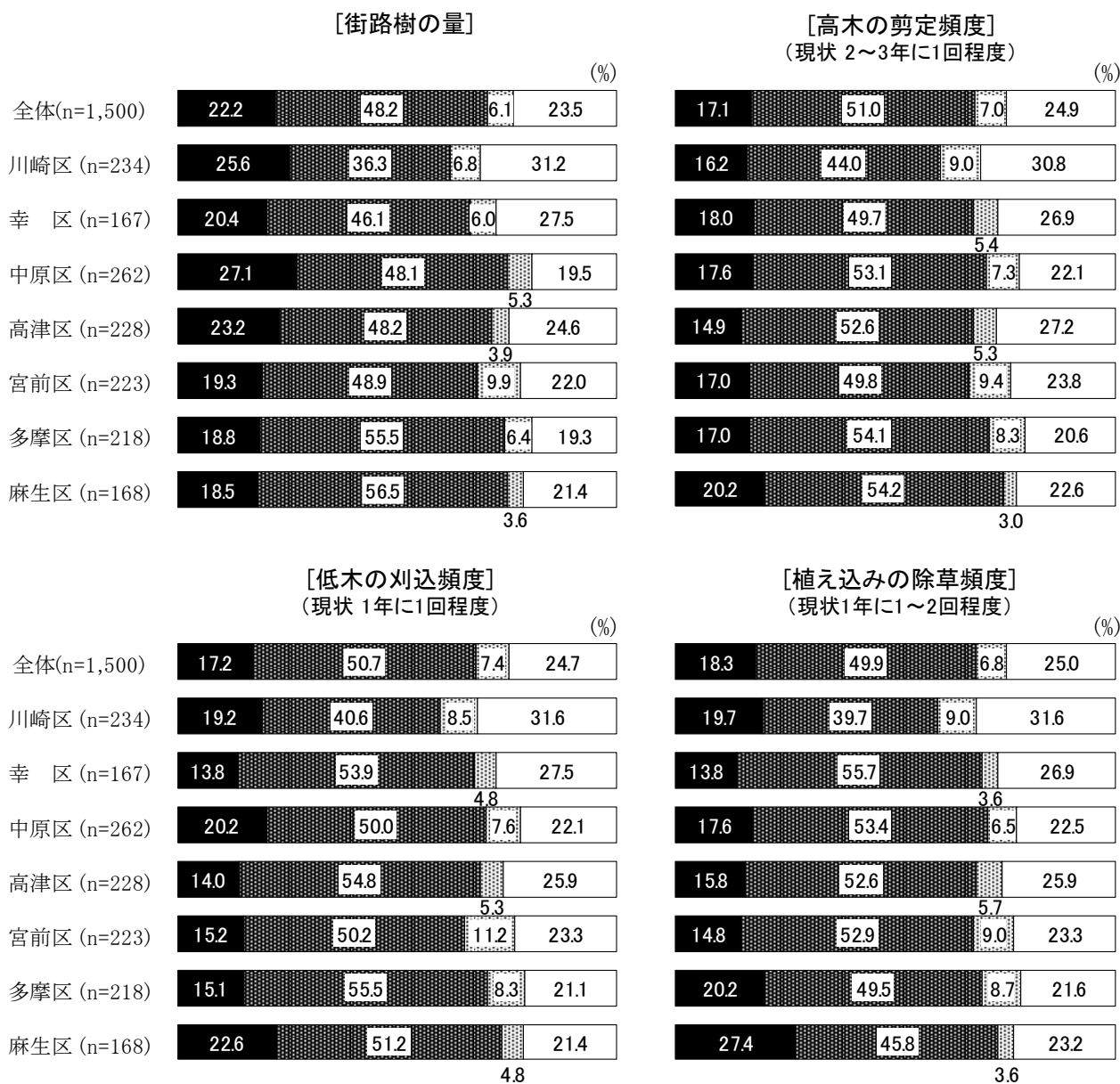
【図表 24】 街路樹の量や維持管理頻度について



居住区別で見ると、[街路樹の量]では、「もっと増やした方がいい」は中原区(27.1%)が他の居住区と比べて最も高くなっている。[高木の剪定頻度]、[低木の刈込頻度]、[植え込みの除草頻度]では、「もっと増やした方がいい」は麻生区が他の居住区と比べて最も高くなっている。また、いずれの項目においても、川崎区は「わからない」が3割を超え、他の居住区と比べて最も高くなっている。

【図表 25】街路樹の量や維持管理頻度について（居住区別）

もっと増やした方がいい
 今の量を保てばいい
 減少してもやむを得ない
 わからない



1.2 川崎市の観光振興について

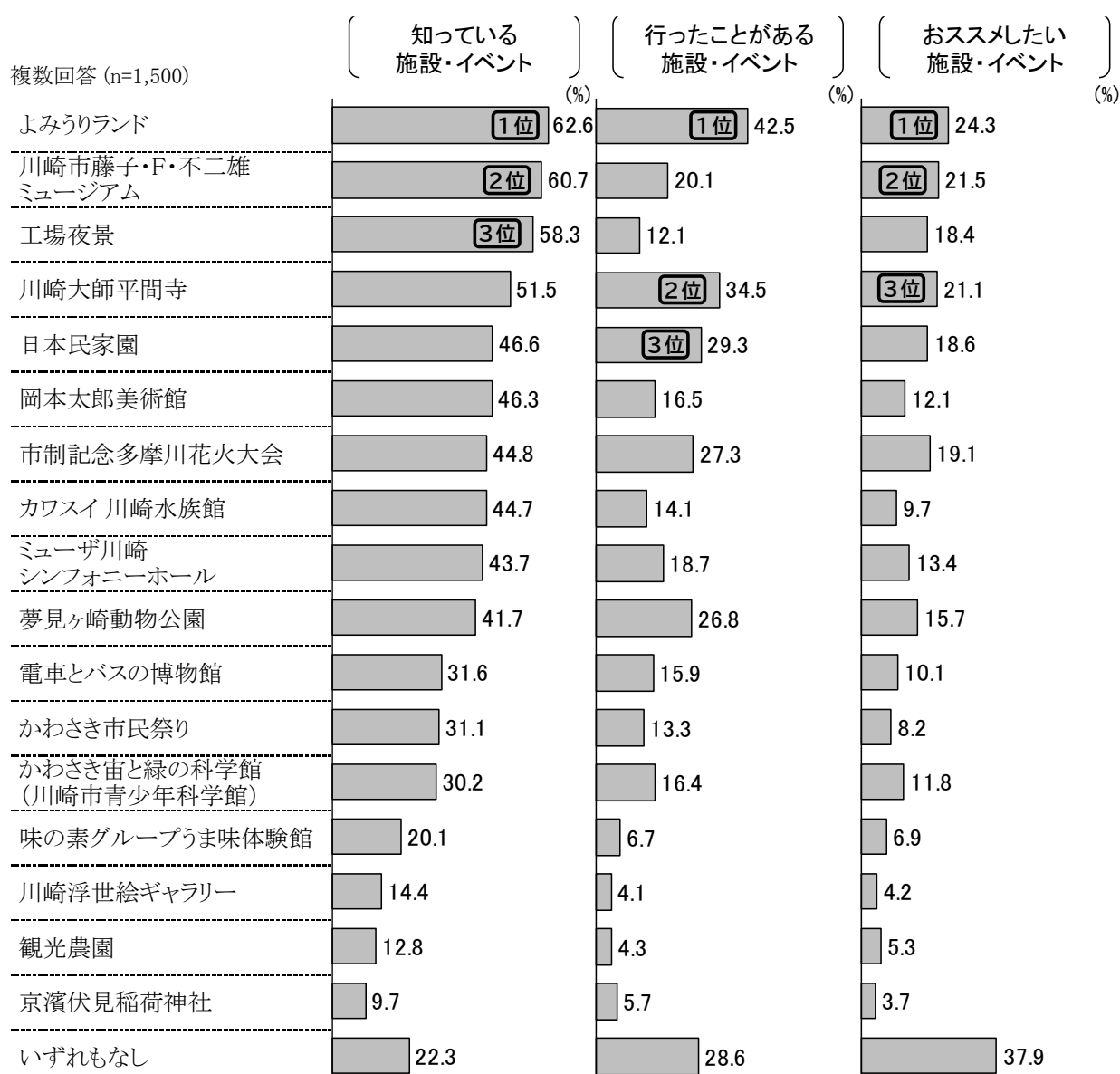
(1) 川崎市の施設・イベント

Q10. 川崎市内にある多様な観光資源について、質問にお答えください。

- ① 知っている施設・イベントを選んでください
- ② 行ったことがある施設・イベントを選んでください
- ③ ほかの人におススメしたい施設・イベントを選んでください

[知っている施設・イベント]、[行ったことがある施設・イベント]、[おススメしたい施設・イベント] いずれも「よみうりランド」が最も高く、2位以下は、[知っている施設・イベント] については2位が「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、3位が「工場夜景」、[行ったことがある施設・イベント] については2位が「川崎大師平間寺」、3位が「日本民家園」、[おススメしたい施設・イベント] については2位が「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、3位が「川崎大師平間寺」となっている。

【図表 26】川崎市内の施設・イベントの認知・来訪経験・推奨意向（複数回答）



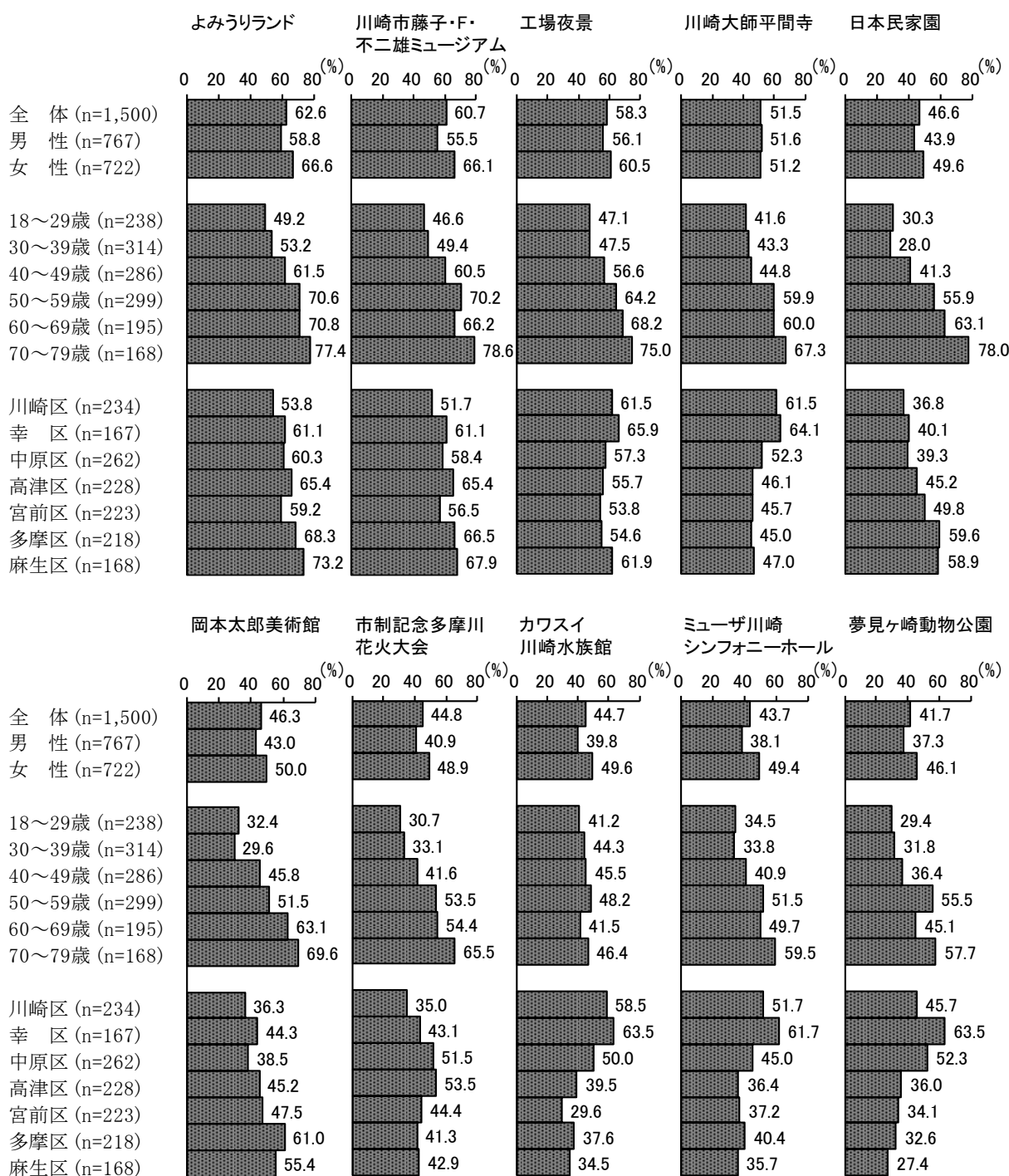
① 知っている施設・イベント

知っている施設・イベントについて性別に見ると、「工場夜景」と「川崎大師平間寺」を除いた施設・イベントで男性よりも女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、「カワスイ 川崎水族館」を除いた項目でおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「工場夜景」、「川崎大師平間寺」、「カワスイ川崎水族館」、「ミュージア川崎シンフォニーホール」、「夢見ヶ崎動物公園」は幸区が最も高くなっている。

【図表 27】 知っている施設・イベント（複数回答） <<上位 10 項目>>
(性別、年齢別、居住区別)



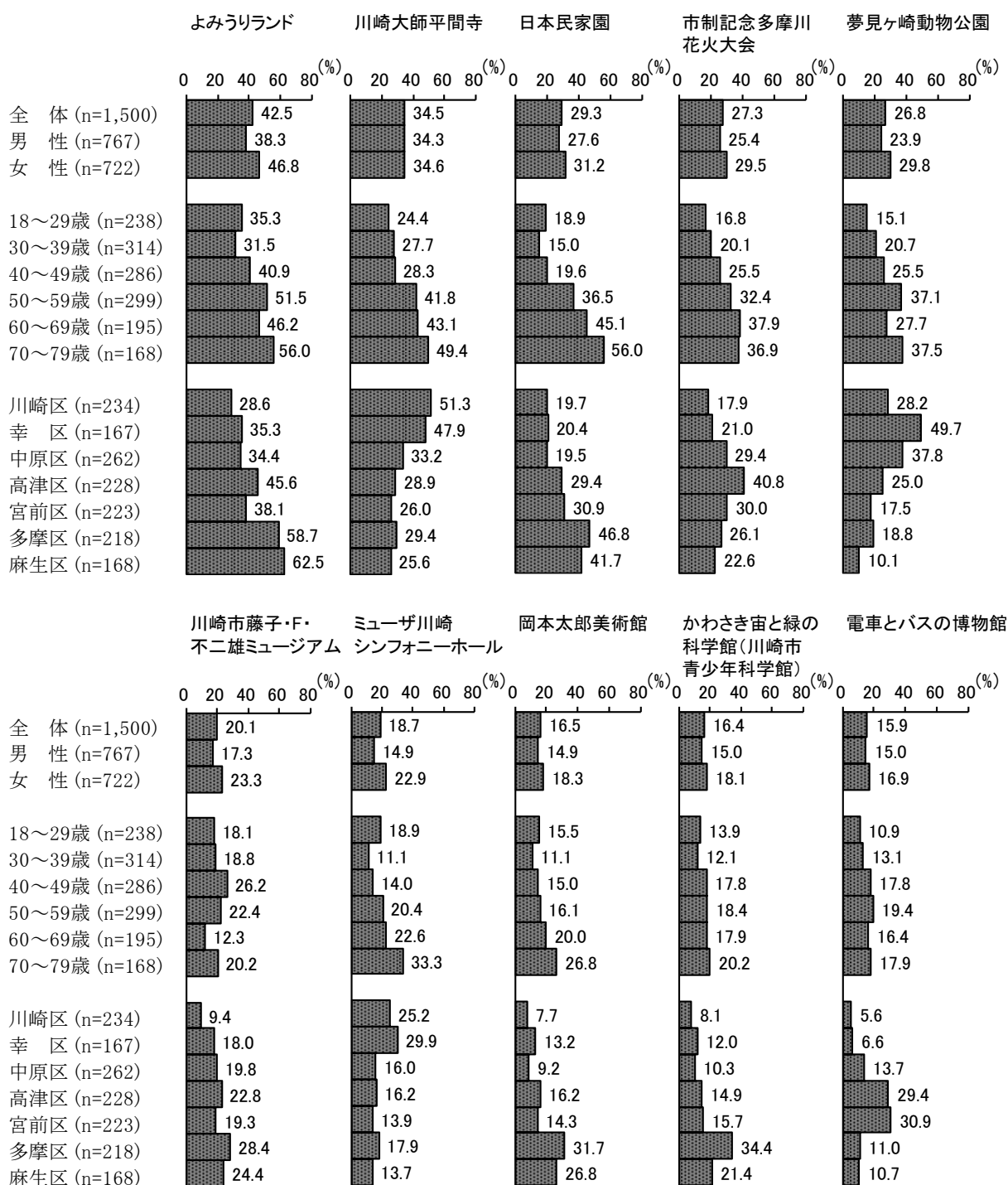
② 行ったことがある施設・イベント

行ったことがある施設・イベントについて性別に見ると、「よみうりランド」、「夢見ヶ崎動物公園」、「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、「ミュージア川崎シンフォニーホール」で男性よりも女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、「よみうりランド」、「川崎大師平間寺」、「日本民家園」、「市制記念多摩川花火大会」、「夢見ヶ崎動物公園」でおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「よみうりランド」を除き、施設の所在地やイベントの開催地が最も高くなっている。

【図表 28】 行ったことがある施設・イベント（複数回答） 《上位 10 項目》
（性別、年齢別、居住区別）



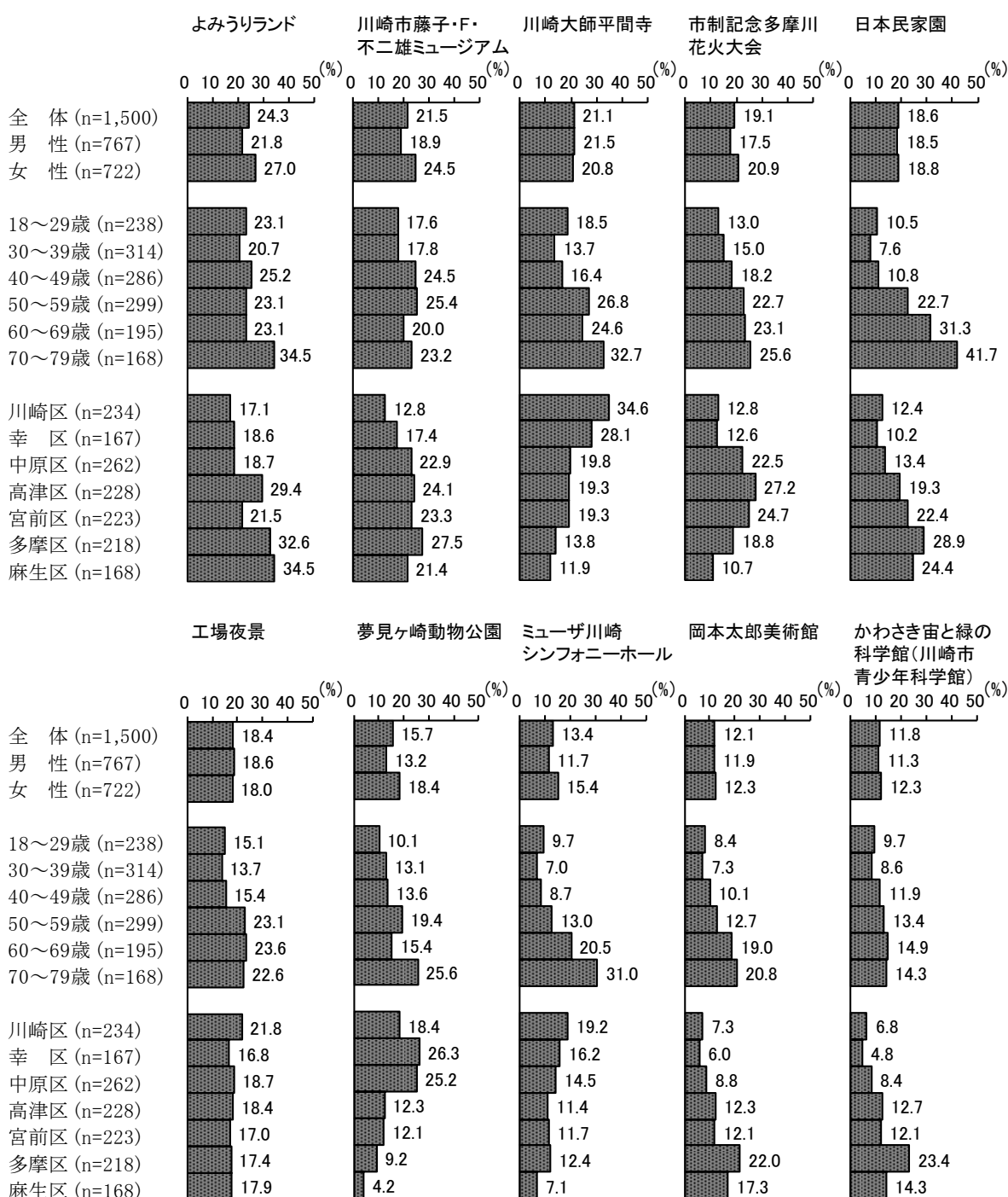
③ おススメしたい施設・イベント

ほかの人におススメしたい施設・イベントについて、性別に見ると、「よみうりランド」、「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、「夢見ヶ崎動物公園」で男性よりも女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、「よみうりランド」、「川崎大師平間寺」、「市制記念多摩川花火大会」、「日本民家園」、「夢見ヶ崎動物公園」、「ミュージア川崎シンフォニーホール」、「岡本太郎美術館」で、70～79歳が最も高くなっている。

居住区別に見ると、「よみうりランド」と「ミュージア川崎シンフォニーホール」を除き、施設の所在地やイベントの開催地が最も高くなっている。

【図表 29】 おススメしたい施設・イベント（複数回答） 《上位10項目》
（性別、年齢別、居住区別）



(2) おススメしたい川崎の魅力

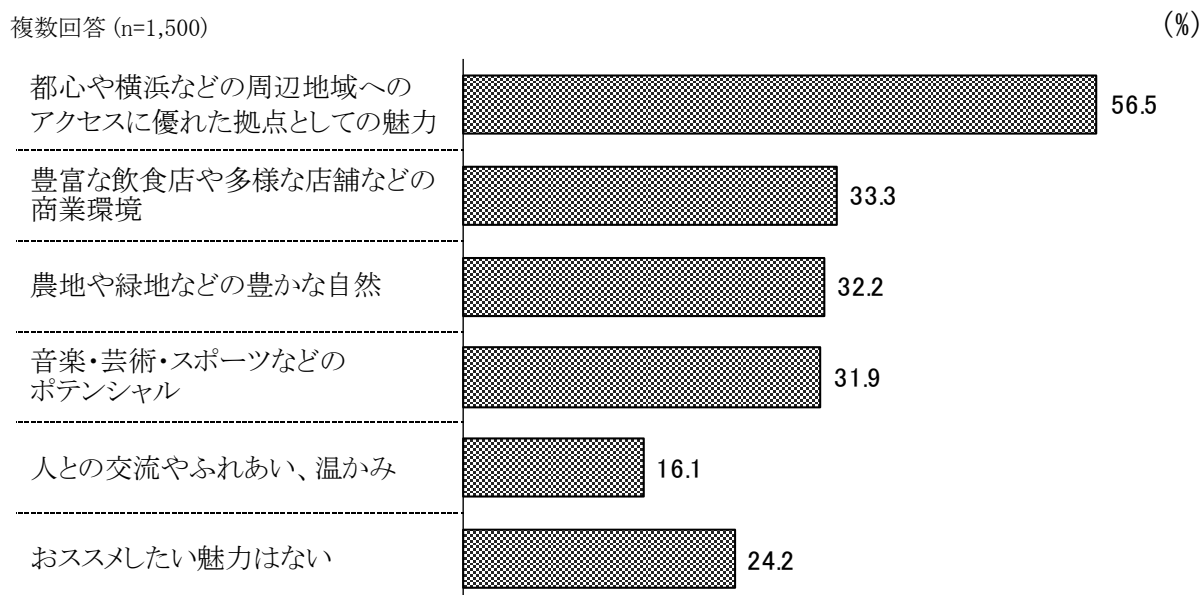
Q11. 以下の中で、あなたが友人・知人などにおススメしたい川崎の魅力はなんですか。

- ① 魅力だと思うこと
- ② (①で選んだものの中で) 一番のおススメ

① 魅力だと思うこと

魅力だと思うことは、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」が56.5%で最も高く、次いで「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」(33.3%)、「農地や緑地などの豊かな自然」(32.2%)、「音楽・芸術・スポーツなどのポテンシャル」(31.9%)と続いている。

【図表 30】 魅力だと思うこと (複数回答)

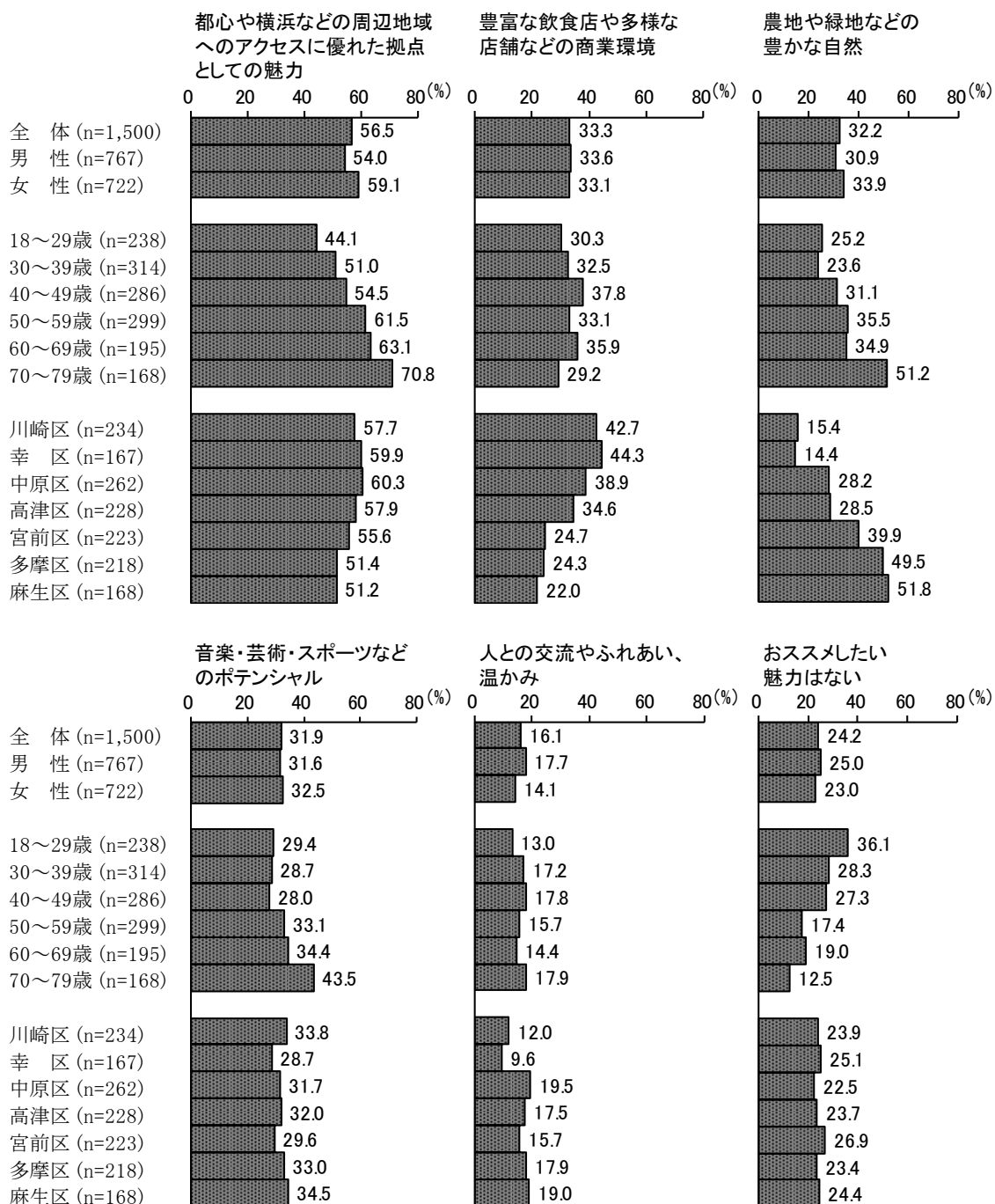


魅力だと思うことについて性別に見ると、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」は男性よりも女性の方が5.1ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」、「農地や緑地などの豊かな自然」、「音楽・芸術・スポーツなどのポテンシャル」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「おススメしたい魅力はない」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」は幸区（44.3%）と川崎区（42.7%）が4割を超え、「農地や緑地などの豊かな自然」は麻生区（51.8%）と多摩区（49.5%）が4割を超え、他の居住区と比べて高くなっている。

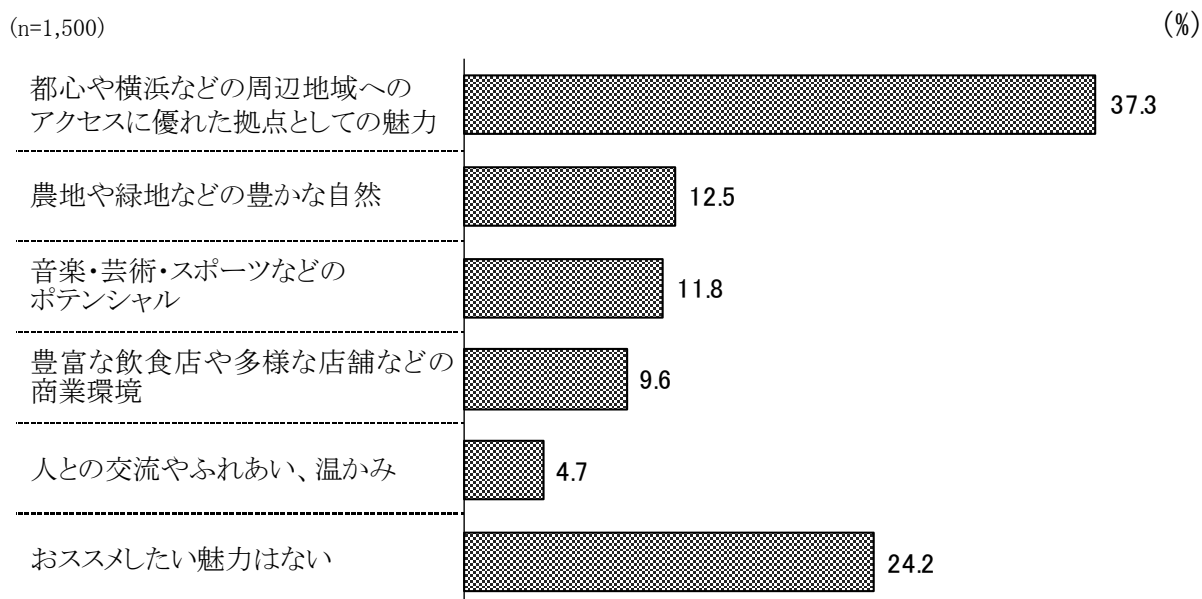
【図表 31】魅力だと思うこと（複数回答）
（性別、年齢別、居住区別）



② 一番のおススメ

一番のおススメは、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」が37.3%で最も高く、次いで「農地や緑地などの豊かな自然」(12.5%)、「音楽・芸術・スポーツなどのポテンシャル」(11.8%)、「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」(9.6%)と続いている。

【図表 32】 一番のおススメ

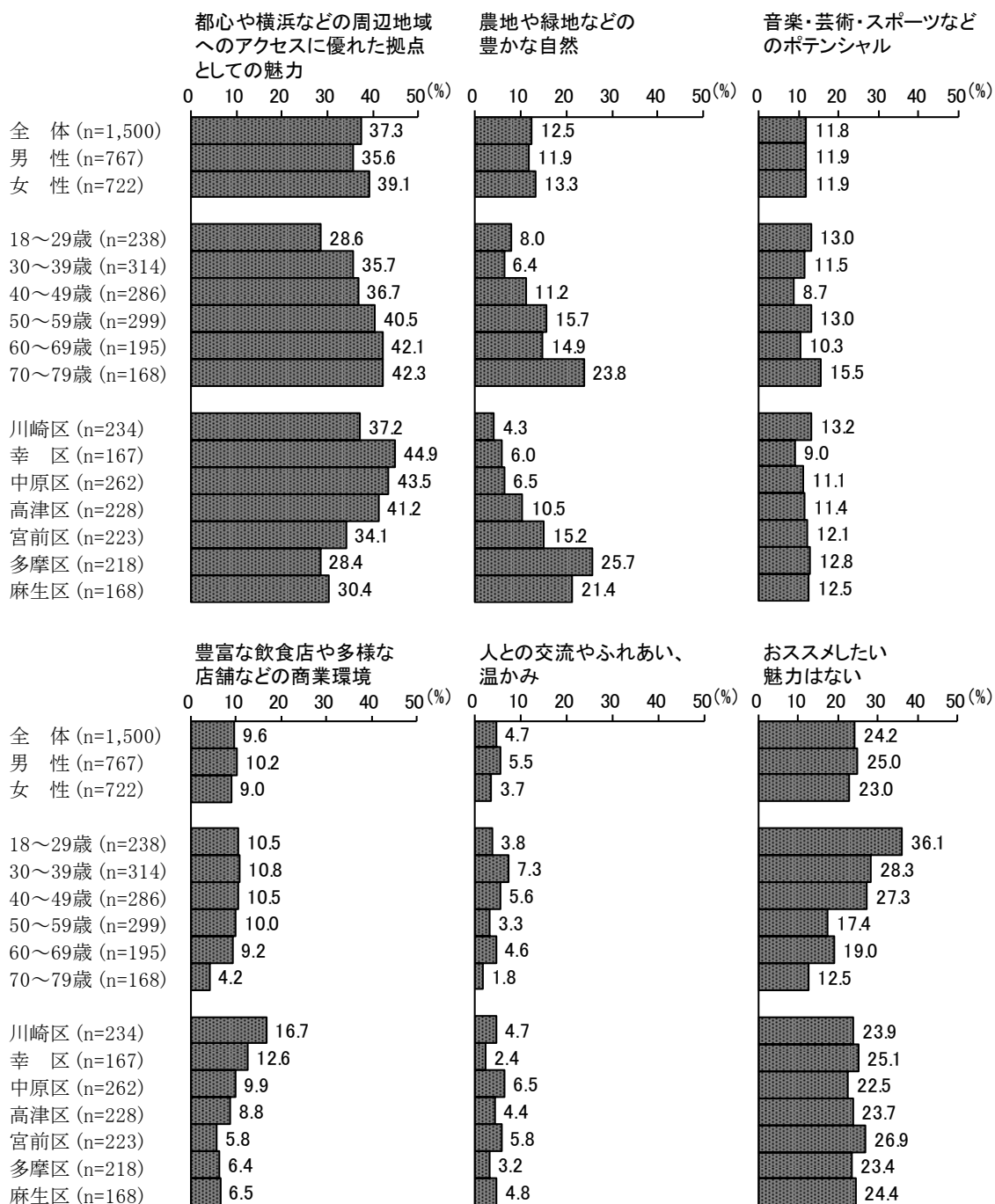


一番のおススメについて、性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」、「人との交流やふれあい、温かみ」を除いた項目で70～79歳が最も高く、「おススメしたい魅力はない」はおおむね年齢が下がるほど高くなっている。

居住区別に見ると、「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」は川崎区（16.7%）と幸区（12.6%）で1割を超え、「農地や緑地などの豊かな自然」は多摩区（25.7%）と麻生区（21.4%）で2割を超え、他の居住区と比べて高くなっている。

【図表 33】 一番のおススメ（性別、年齢別、居住区別）



(3) 観光客の増加についての考え

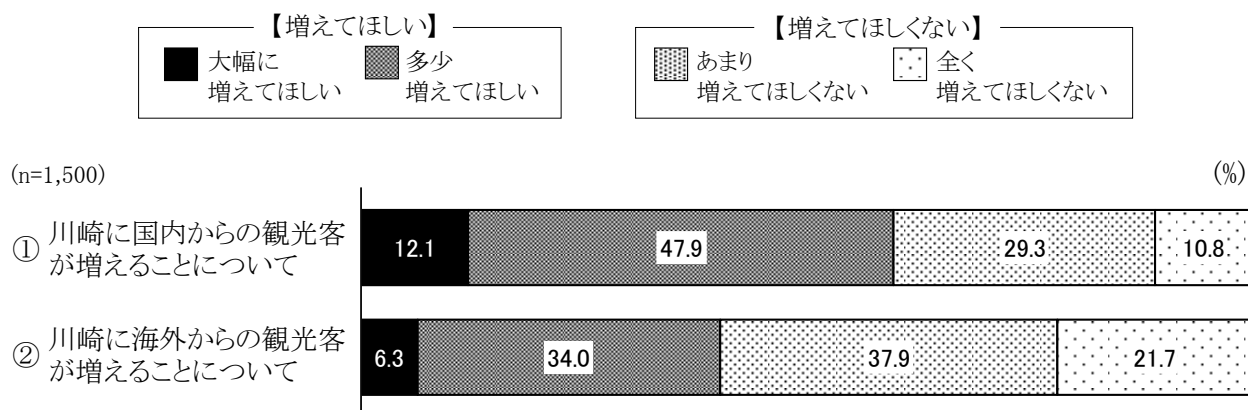
Q12. あなたの観光に関するお考えをお聞かせください。

- ① 川崎に国内からの観光客が増えることについて
- ② 川崎に海外からの観光客が増えることについて

〔川崎に国内からの観光客が増えることについて〕は、「大幅に増えてほしい」と「多少増えてほしい」を合計した【増えてほしい】は59.9%となっている。

〔川崎に海外からの観光客が増えることについて〕は、【増えてほしい】は40.3%であり、「あまり増えてほしくない」と「全く増えてほしくない」を合計した【増えてほしくない】(59.7%)の方が高くなっている。

【図表 34】 観光客の増加についての考え

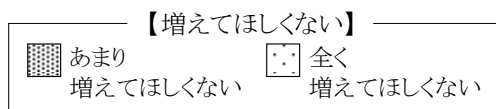
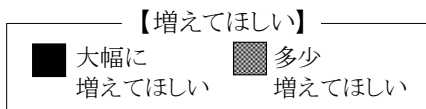


性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【増えてほしい】の割合は、[川崎に国内からの観光客が増えることについて]、[川崎に海外からの観光客が増えることについて]ともに、40歳代以下の年齢層よりも50歳代以上の年齢層の方が高くなっている。

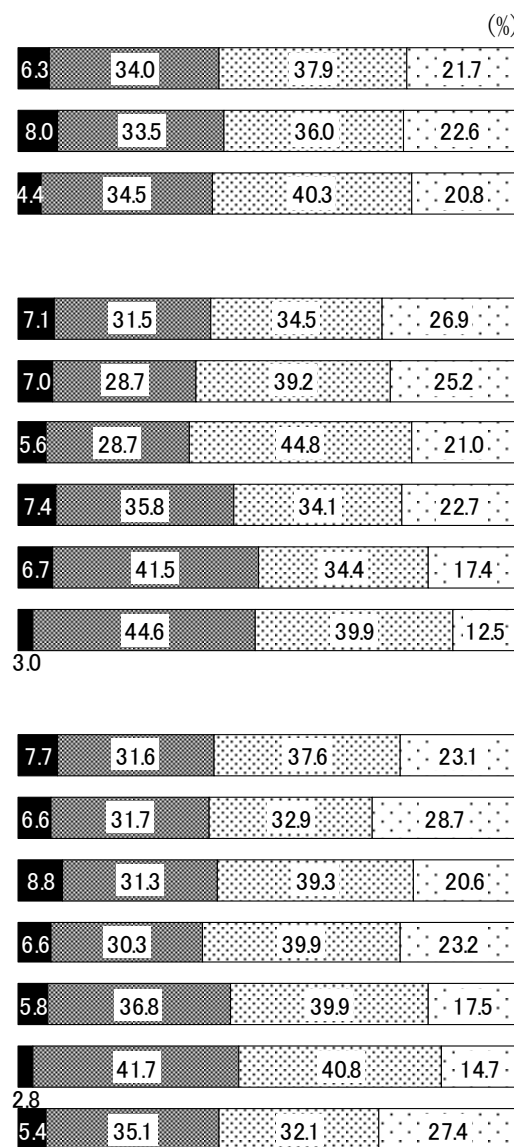
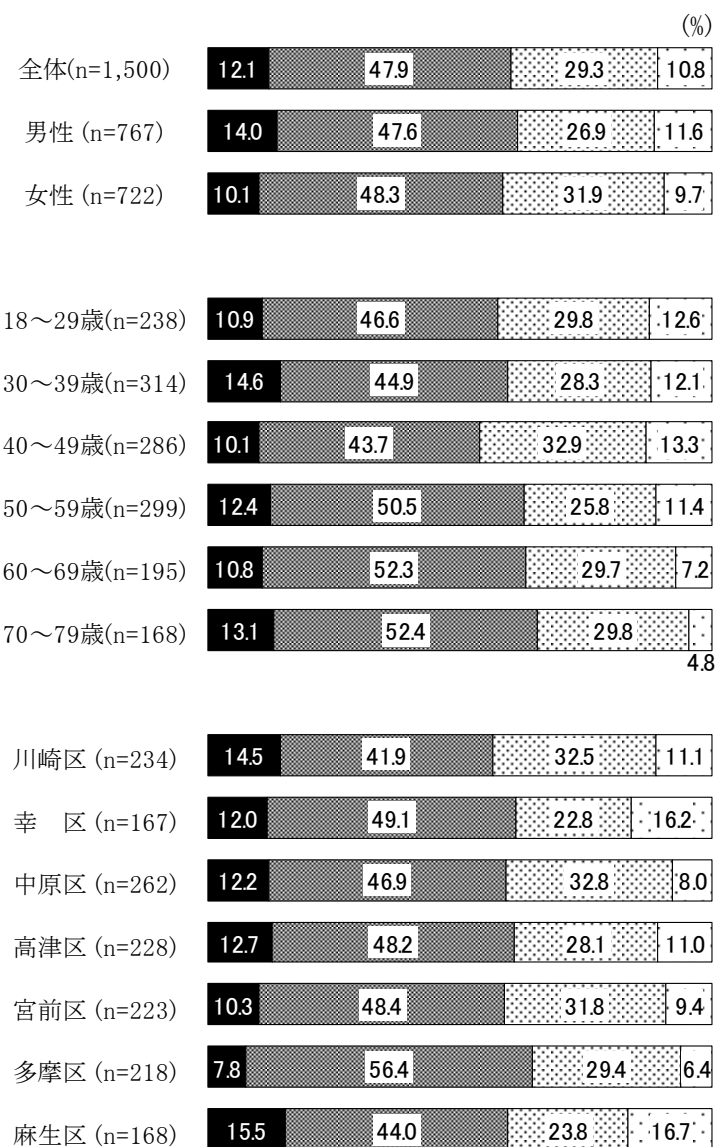
居住区別に見ると、【増えてほしい】の割合は、[川崎に国内からの観光客が増えることについて]、[川崎に海外からの観光客が増えることについて]ともに、多摩区が最も高くなっている。

【図表 35】観光客の増加についての考え（性別、年齢別、居住区別）



①[川崎に国内からの観光客が増えることについて]

②[川崎に海外からの観光客が増えることについて]

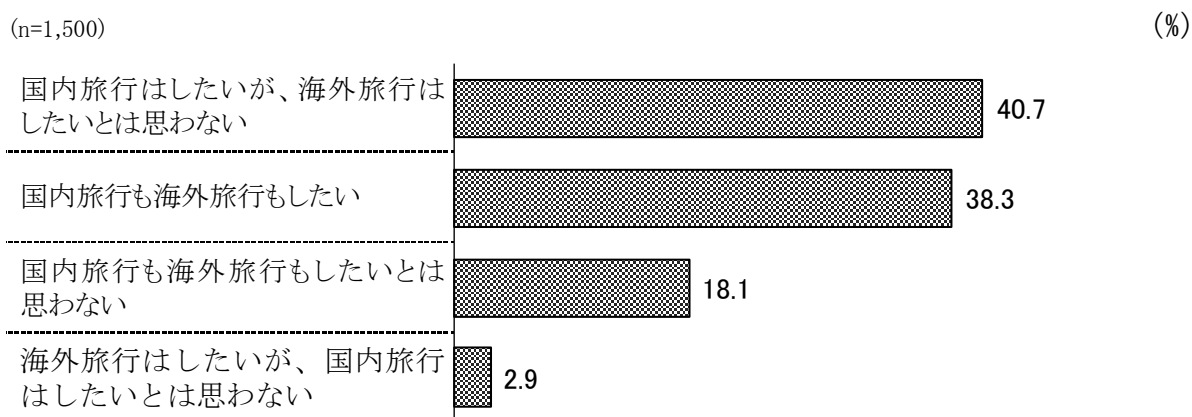


(4) 今後の旅行（国内・海外）に対する意向

Q13. あなたは、今後（1年くらいの間）、観光、レクリエーション、スポーツなどのために旅行（国内旅行・海外旅行）をしたいと思いますか。

「国内旅行はしたいが、海外旅行はしたいとは思わない」が40.7%で最も高く、次いで「国内旅行も海外旅行もしたい」(38.3%)、「国内旅行も海外旅行もしたいとは思わない」(18.1%)、「海外旅行はしたいが、国内旅行はしたいとは思わない」(2.9%)と続いている。

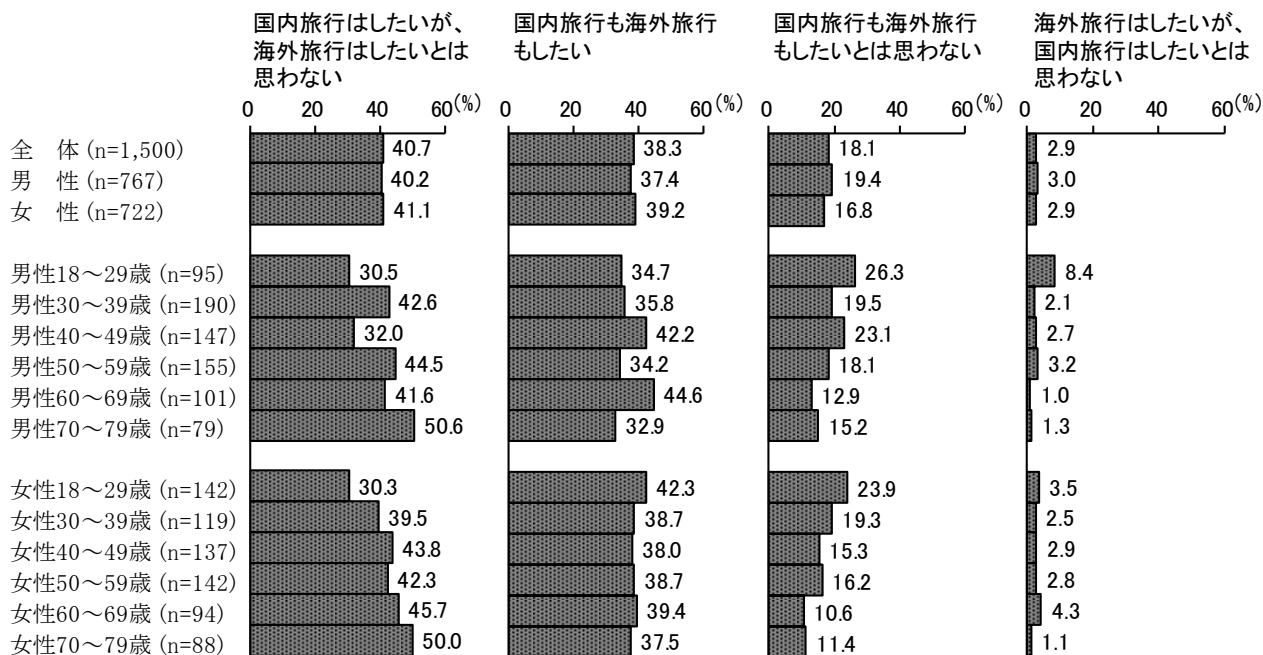
【図表 36】今後の旅行（国内・海外）に対する意向



性別では大きな差は見られない。

性／年齢別に見ると、「国内旅行はしたいが、海外旅行はしたいとは思わない」は男女ともに18～29歳が最も低く、70歳以上が最も高くなっている。また、「国内旅行も海外旅行もしたいとは思わない」は男女ともにおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 37】 今後の旅行（国内・海外）に対する意向
（性別、性／年齢別）

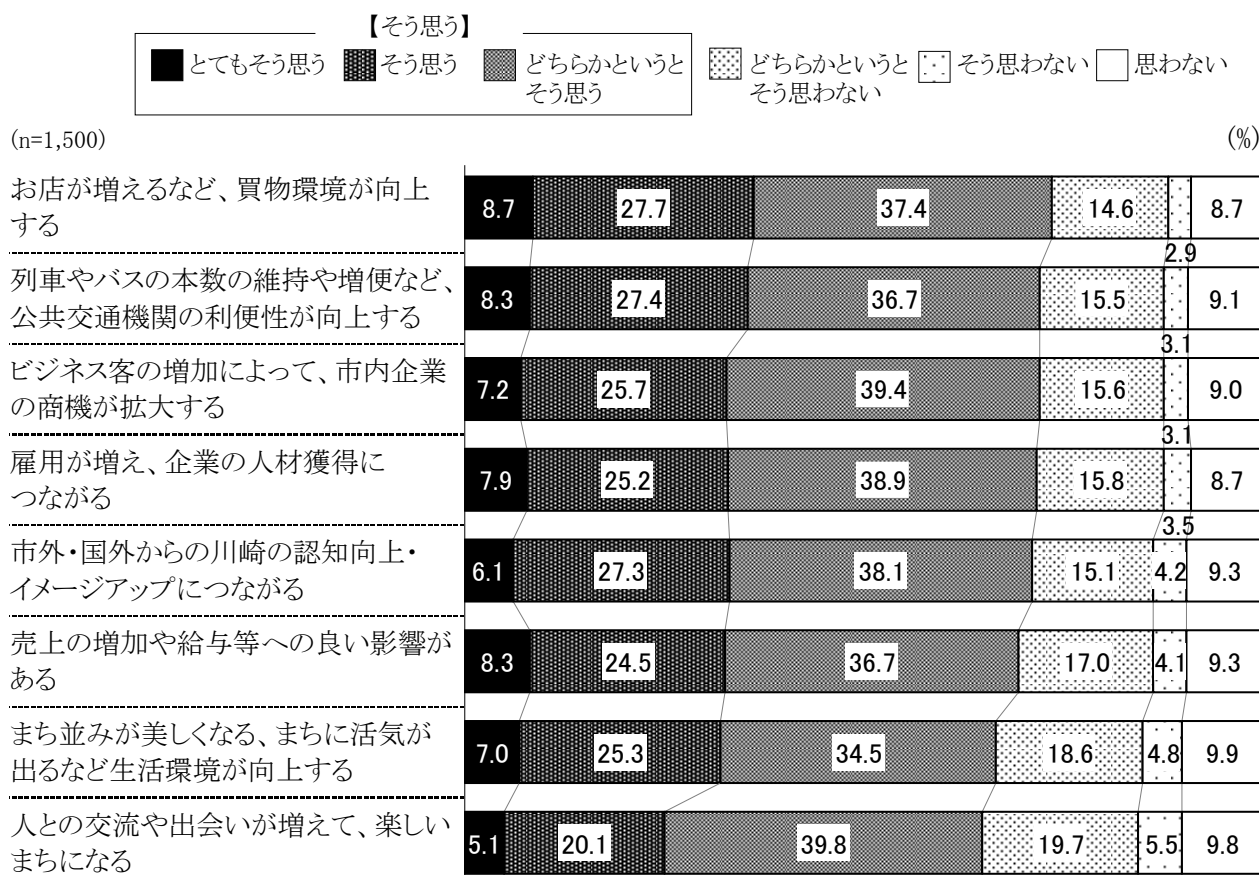


(5) 川崎の観光が盛り上がることで期待すること

Q14. 川崎の観光が盛り上がることで、どのようなことに期待をしますか。
項目ごとに1つずつお選びください。

「とてもそう思う」、「そう思う」、「どちらかというそう思う」を合計した【そう思う】は、「お店が増えるなど、買物環境が向上する」(73.8%)が最も高く、次いで「列車やバスの本数の維持や増便など、公共交通機関の利便性が向上する」と「ビジネス客の増加によって、市内企業の商機が拡大する」(ともに72.3%)、「雇用が増え、企業の人材獲得につながる」(71.9%)と続いている。

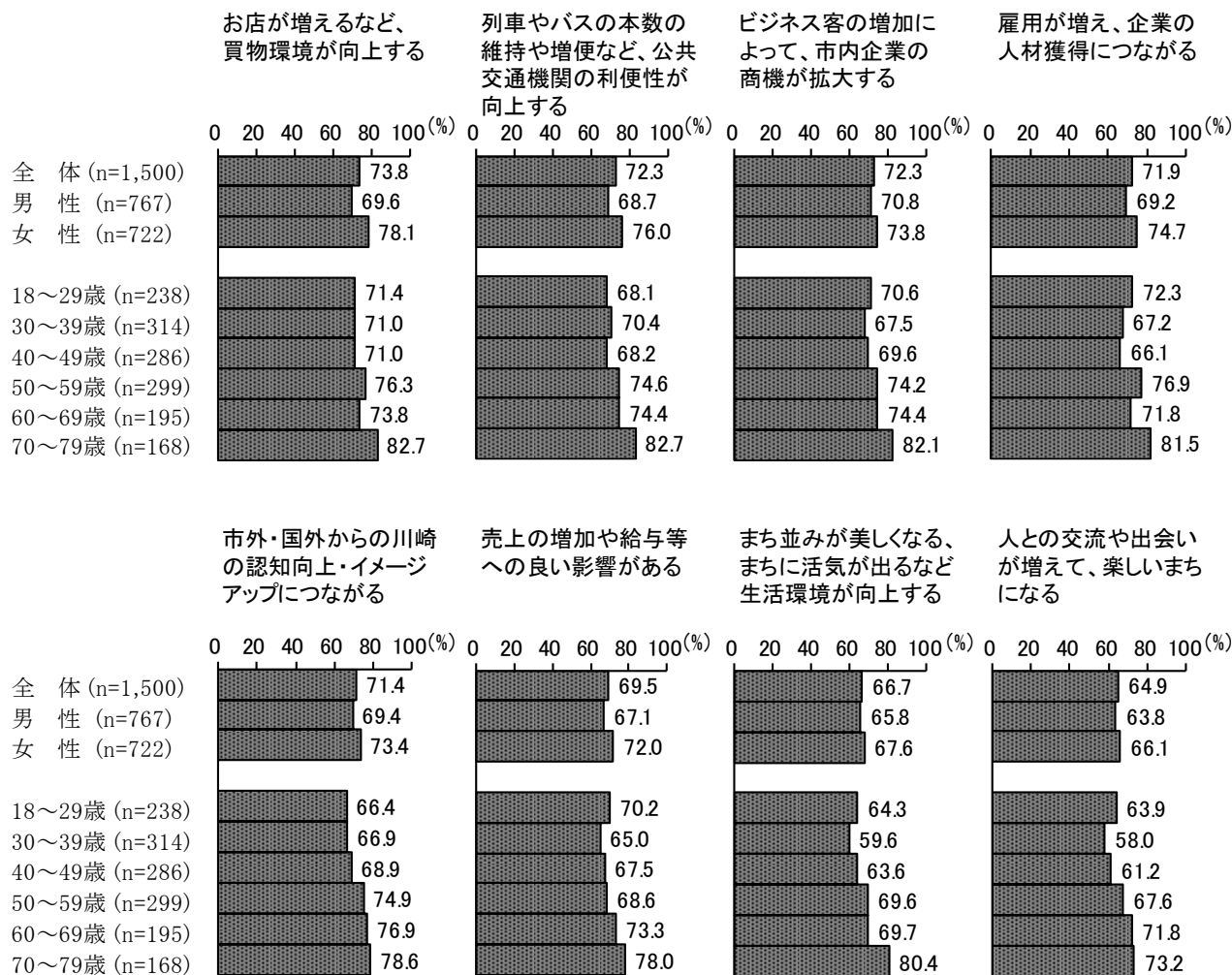
【図表 38】川崎の観光が盛り上がることで期待すること



性別に見ると、【そう思う】の割合は、「お店が増えるなど、買物環境が向上する」、「列車やバスの本数の維持や増便など、公共交通機関の利便性が向上する」、「雇用が増え、企業の人材獲得につながる」で、男性よりも女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、【そう思う】の割合は、すべての項目で70～79歳が最も高くなっている。

【図表 39】川崎の観光が盛り上がることで期待すること（【そう思う】回答者）
（性別、年齢別）



(6) 催し物（会議やイベントなど）を行うための施設について

Q15. 川崎市には催し物（会議やイベントなど）を行うための施設がいくつかあります。
以下の質問にあてはまる施設をえらんでください。

- ①知っている施設
- ②催し物の参加者として行ったことがある施設
- ③催し物の主催者やスタッフとして利用したことがある施設

〔知っている施設〕では、「ミュージア川崎シンフォニーホール（幸区）」が49.5%と最も高く、次いで「川崎市民プラザ（高津区）」（45.3%）、「カルッツかわさき（川崎区）」（27.2%）と続いている。

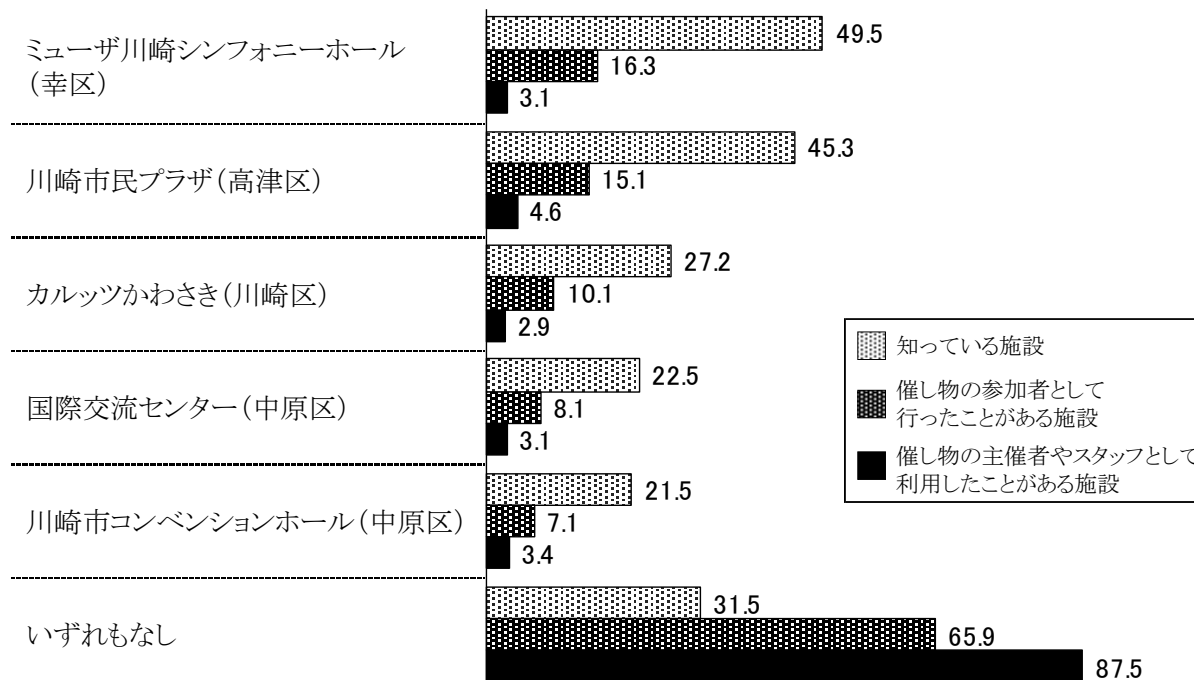
〔催し物の参加者として行ったことがある施設〕では、「ミュージア川崎シンフォニーホール（幸区）」が16.3%と最も高く、次いで「川崎市民プラザ（高津区）」（15.1%）、「カルッツかわさき（川崎区）」（10.1%）と続いている。

〔催し物の主催者やスタッフとして利用したことがある施設〕では、最も割合の高い「川崎市民プラザ（高津区）」でも4.6%とすべての施設で5.0%を下回り、「いずれもなし」（87.5%）が9割近くを占めている。

【図表 40】 催し物（会議やイベントなど）を行うための施設について（複数回答）

複数回答 (n=1,500)

(%)

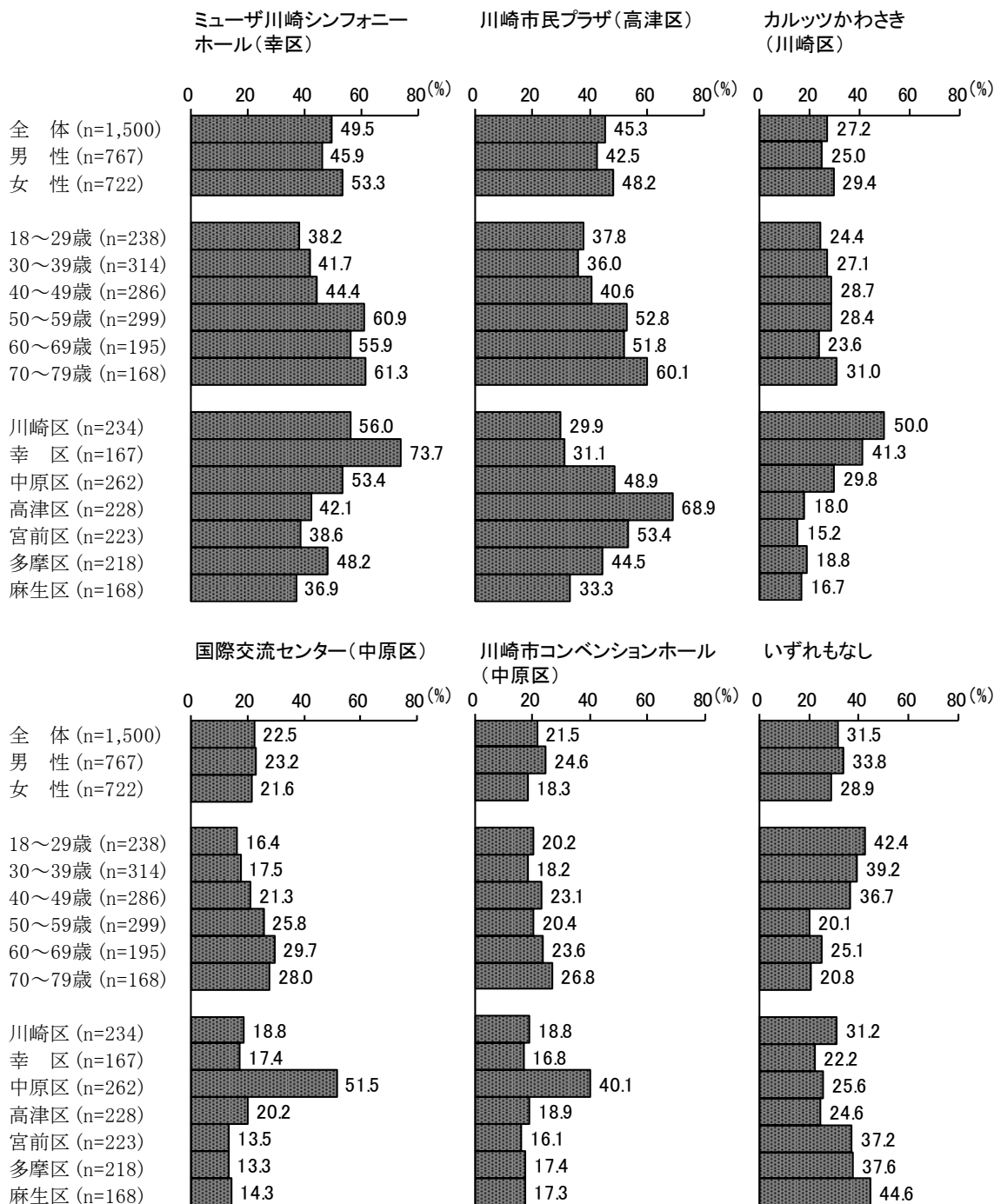


知っている施設について性別に見ると、「ミュージア川崎シンフォニーホール（幸区）」、「川崎市民プラザ（高津区）」は男性よりも女性の方が5ポイント以上高く、「川崎市コンベンションホール（中原区）」は女性よりも男性の方が6.3ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「カルッツかわさき（川崎区）」を除いた施設でおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっており、「いずれもなし」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、すべての施設で所在地の区の割合が最も高く、「いずれもなし」は麻生区が最も高い。

【図表 41】知っている施設（複数回答）
（性別、年齢別、居住区別）

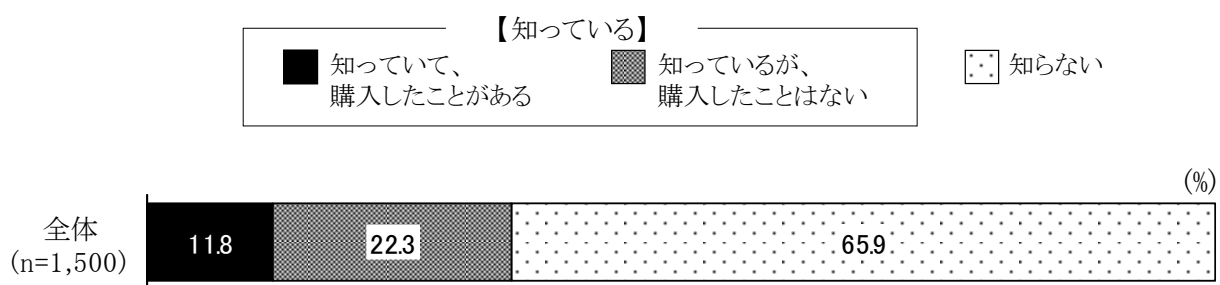


(7) 「かわさき名産品」認知・購入状況

Q16. 川崎市では市内の生産品をPRするため「かわさき名産品」という認定制度を実施しています。
あなたは「かわさき名産品」を知っていますか？

「知らない」が 65.9%で最も高く、次いで「知っているが、購入したことはない」(22.3%)、「知っていて、購入したことがある」(11.8%)となっており、「知っているが、購入したことはない」と「知っていて、購入したことがある」を合計した【知っている】は34.1%であった。

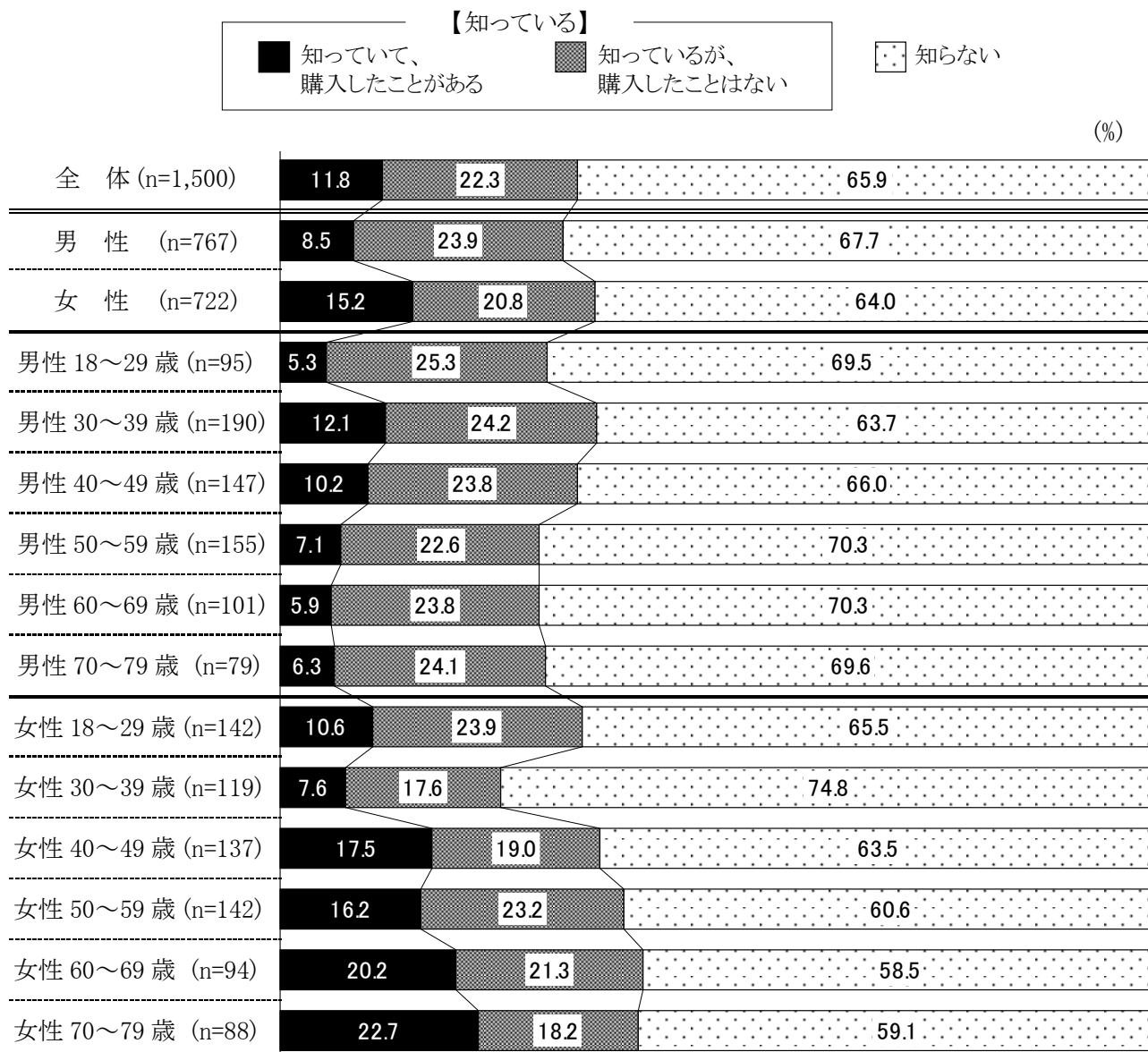
【図表 42】「かわさき名産品」認知・購入状況



性別に見ると、「知っていて、購入したことがある」の割合は男性よりも女性の方が6.7ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、「知っていて、購入したことがある」の割合は女性の60歳代以上で2割を超えて高くなっている。

【図表 43】「かわさき名産品」認知・購入状況（性別、性／年齢別）

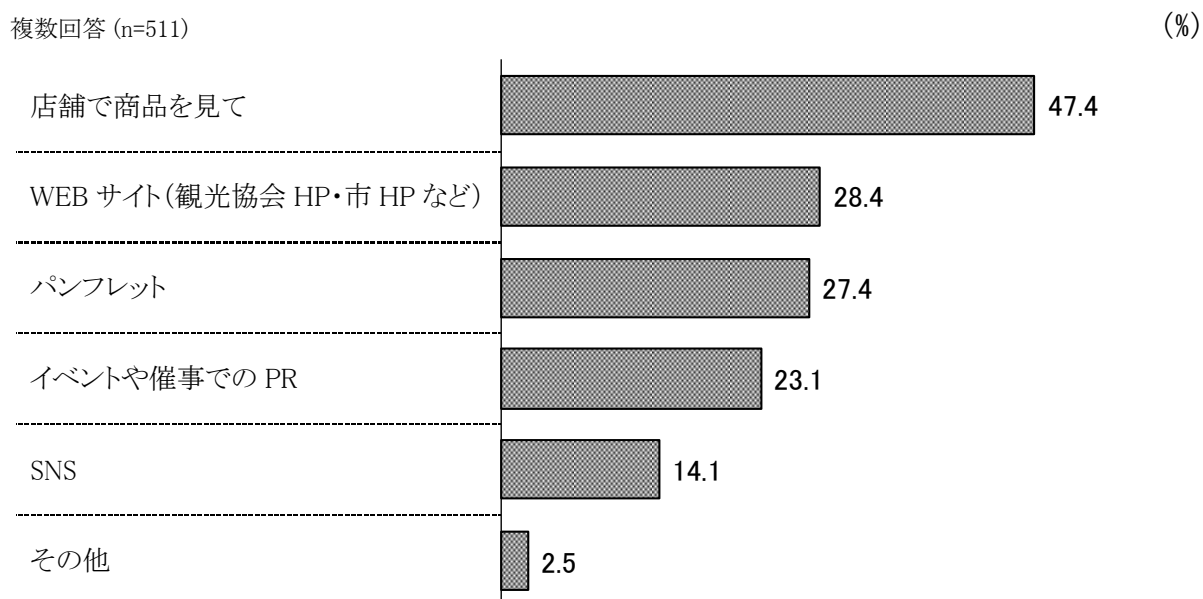


(8) 「かわさき名産品」認知経路

Q16-1. 「かわさき名産品」を知ったきっかけは何ですか？

「かわさき名産品」について、「知っているが、購入したことはない」と「知っていて、購入したことがある」と回答した人にその認知経路について尋ねたところ、「店舗で商品を見て」が47.4%で最も高く、次いで「WEBサイト（観光協会HP・市HPなど）」(28.4%)、「パンフレット」(27.4%)、「イベントや催事でのPR」(23.1%)と続いている。

【図表 44】「かわさき名産品」認知経路（複数回答）

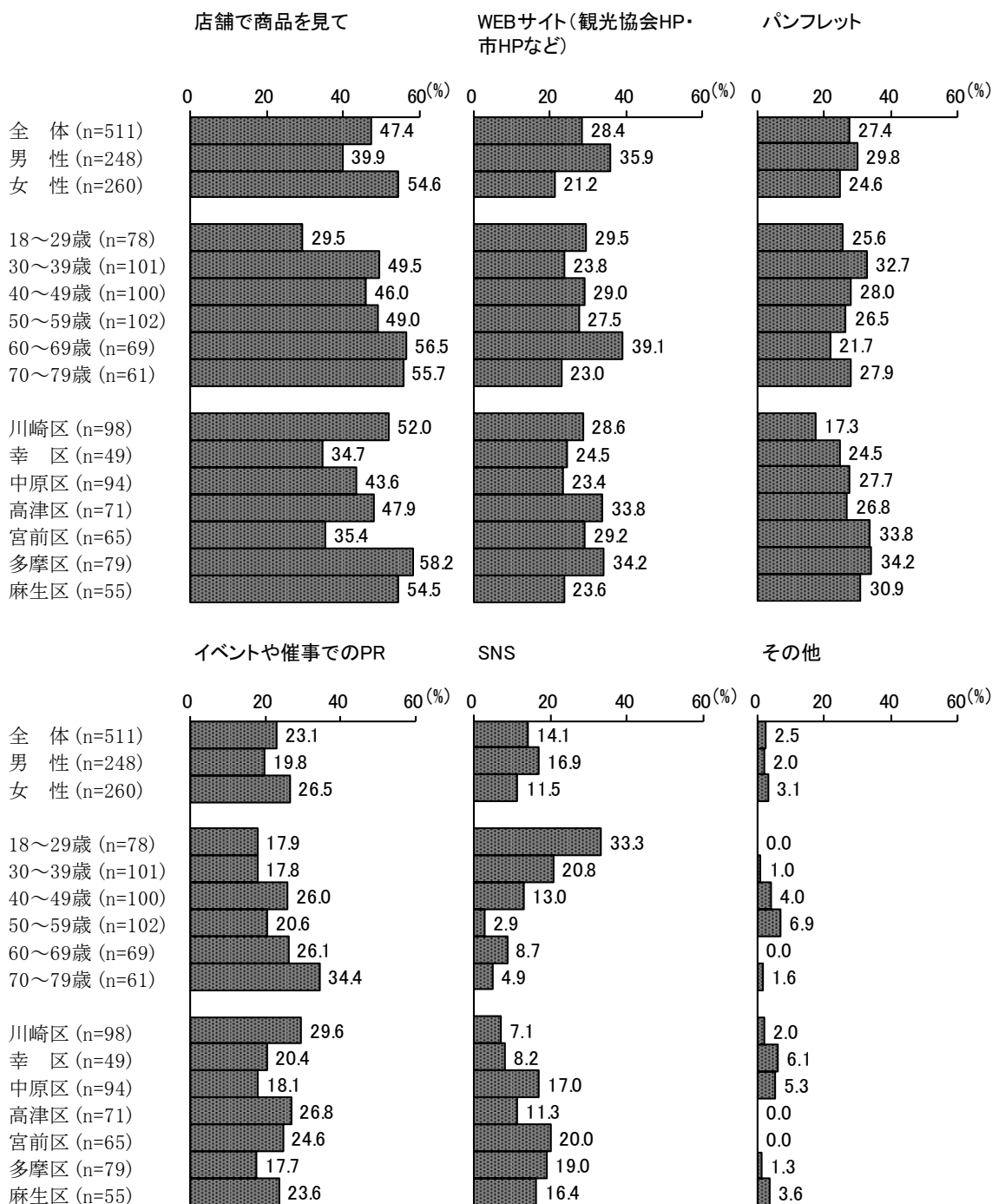


性別に見ると、「店舗で商品を見て」と「イベントや催事でのPR」は男性よりも女性の方が5ポイント以上高く、「WEBサイト（観光協会HP・市HPなど）」、「パンフレット」、「SNS」は女性よりも男性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、「店舗で商品を見て」は60～69歳（56.5%）と70～79歳（55.7%）で5割を超えて高く、「イベントや催事でのPR」はおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。また、「SNS」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「店舗で商品を見て」は川崎区（52.0%）、多摩区（58.2%）、麻生区（54.5%）が5割を超えて高く、「イベントや催事でのPR」は川崎区（29.6%）が最も高い。

【図表 45】「かわさき名産品」認知経路（複数回答）
（性別、年齢別、居住区別）



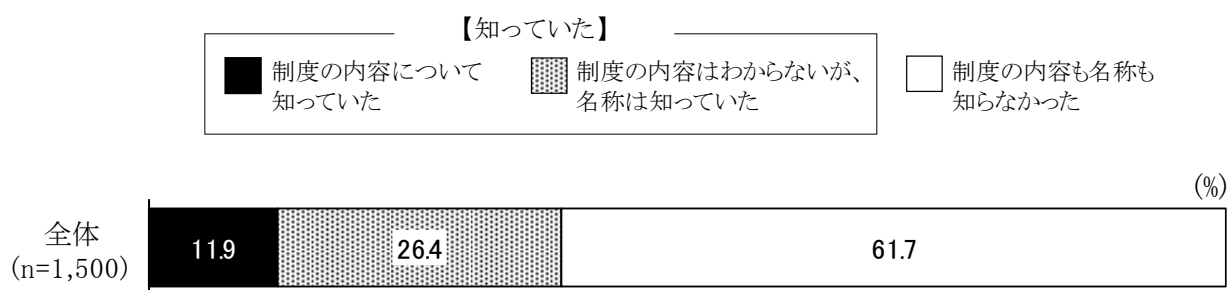
1.3 特別市（特別自治市）について

(1) 「特別市（特別自治市）」の認知状況

Q17. 川崎市は、県の区域外となり、権限と財源を市に一本化する「特別市（特別自治市）」制度の実現を目指しています。
あなたは、「特別市（特別自治市）」制度を知っていましたか。

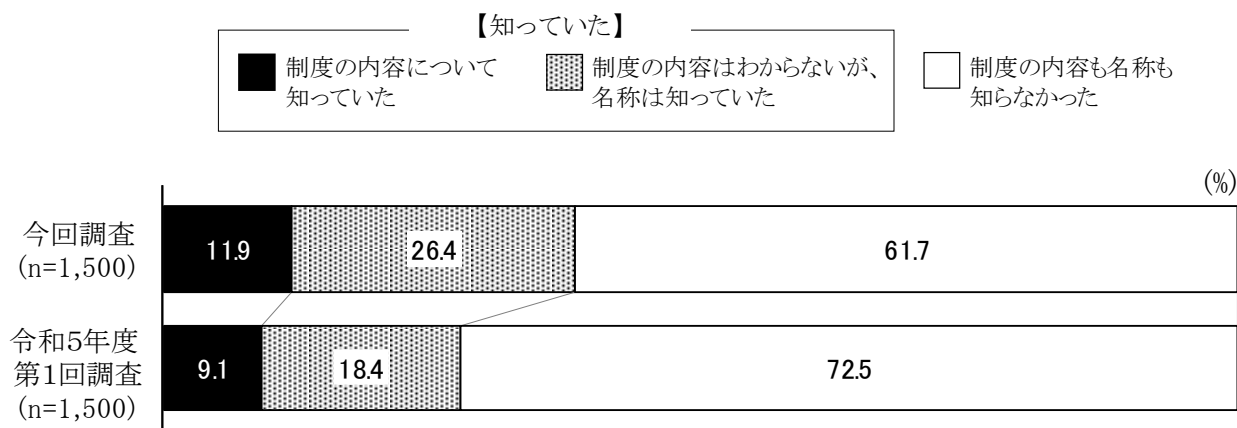
「制度の内容について知っていた」（11.9%）と「制度の内容はわからないが、名称は知っていた」（26.4%）を合計した【知っていた】は38.3%であった。

【図表 46】「特別市（特別自治市）」の認知状況



令和5（2023）年度第1回調査（インターネット調査）と比較すると、【知っていた】は27.5%から今回は38.3%と、10.8ポイント上昇した。

【図表 47】「特別市（特別自治市）」の認知状況（過去調査との比較）



性別に見ると、【知っていた】の割合は女性（34.9%）よりも男性（41.5%）の方が6.6ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男女ともに50歳代以上で4割を超え、男性は70～79歳（46.8%）、女性は60～69歳（43.6%）が最も高い。

居住区別に見ると、【知っていた】の割合は「川崎区」（42.3%）、「麻生区」（42.3%）、「中原区」（42.0%）、「多摩区」（41.3%）で4割を超えている。

【図表 48】「特別市（特別自治市）」の認知状況（性別、性／年齢別、居住区別）

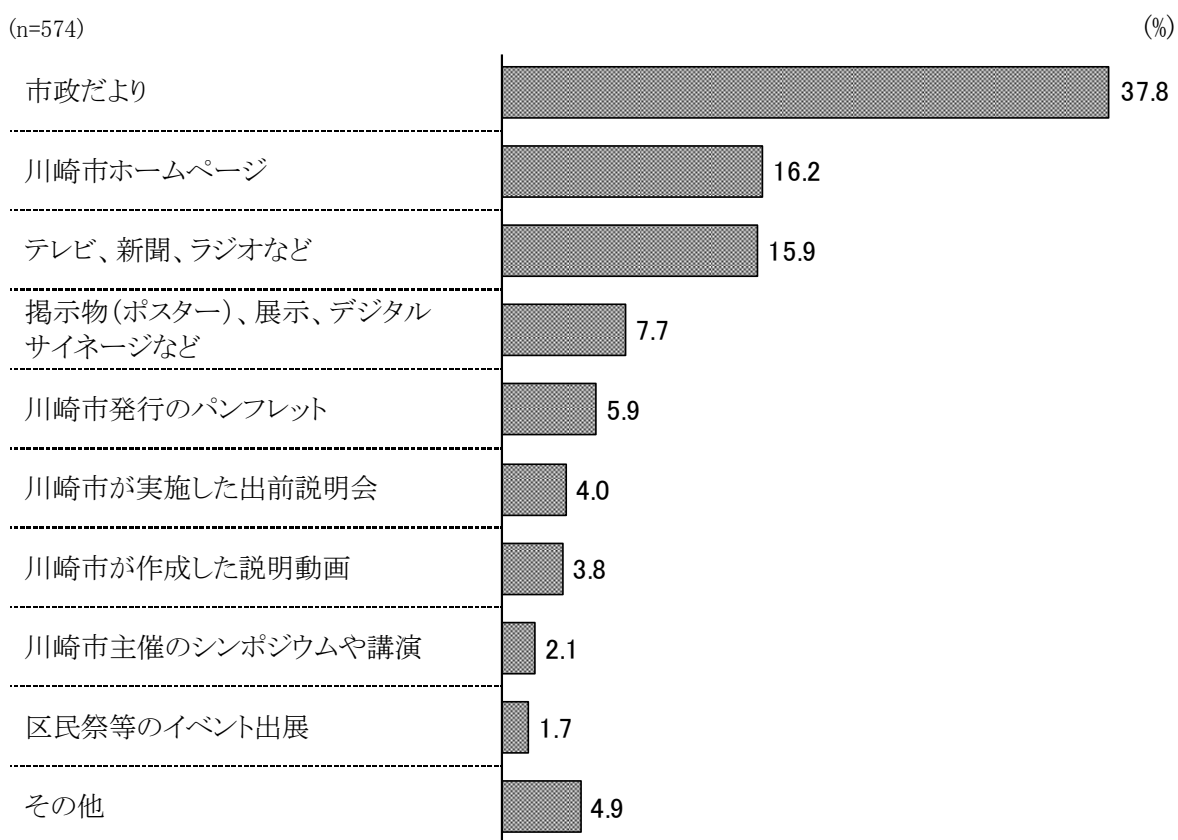


(2) 「特別市（特別自治市）」の認知経路

Q18. あなたは、どこで最初に「特別市（特別自治市）」を知りましたか。

「特別市（特別自治市）」について【知っていた】と回答した人に、認知経路について尋ねたところ、「市政だより」が37.8%と最も高く、次いで「川崎市ホームページ」(16.2%)、「テレビ、新聞、ラジオなど」(15.9%)と続いている。

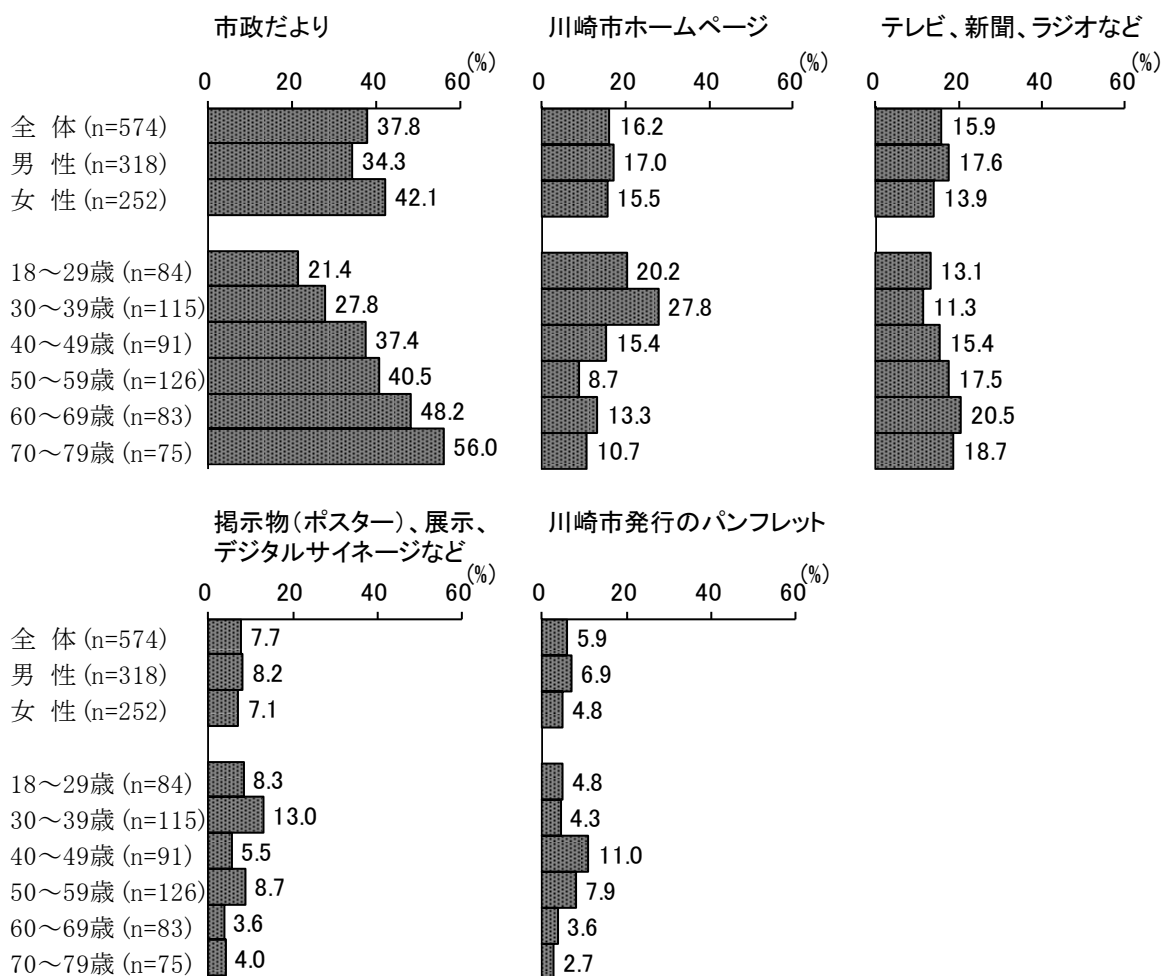
【図表 49】「特別市（特別自治市）」の認知経路



性別に見ると、「市政だより」は男性（34.3%）よりも女性（42.1%）の方が7.8ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「市政だより」は年齢が上がるほど割合が高くなっており、「川崎市ホームページ」は30～39歳（27.8%）が最も高くなっている。また、「掲示物（ポスター）、展示、デジタルサイネージなど」は30～39歳（13.0%）が最も高く、「川崎市発行のパンフレット」は40～49歳（11.0%）が最も高い。

【図表 50】「特別市（特別自治市）」の認知経路 <<上位5項目>>
(性別、年齢別)

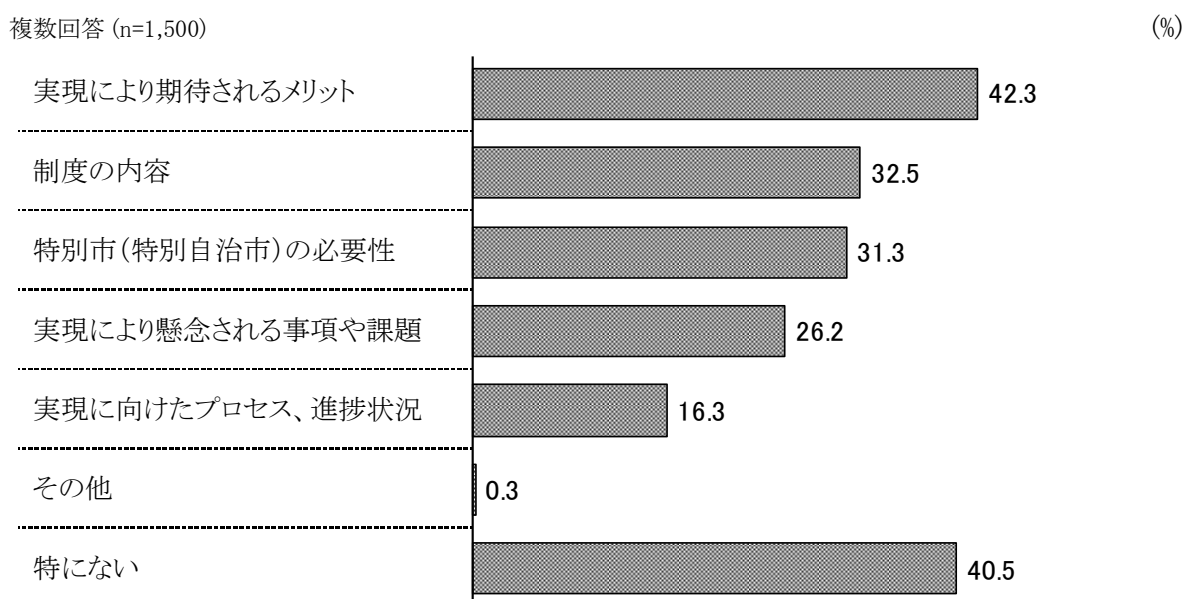


(3) 「特別市（特別自治市）」について知りたいこと

Q19. 「特別市（特別自治市）」について、知りたいことを教えてください。

「実現により期待されるメリット」が42.3%で最も高く、次いで「制度の内容」(32.5%)、「特別市（特別自治市）の必要性」(31.3%)と続いている。一方で、「特にない」(40.5%)が4割を占めている。

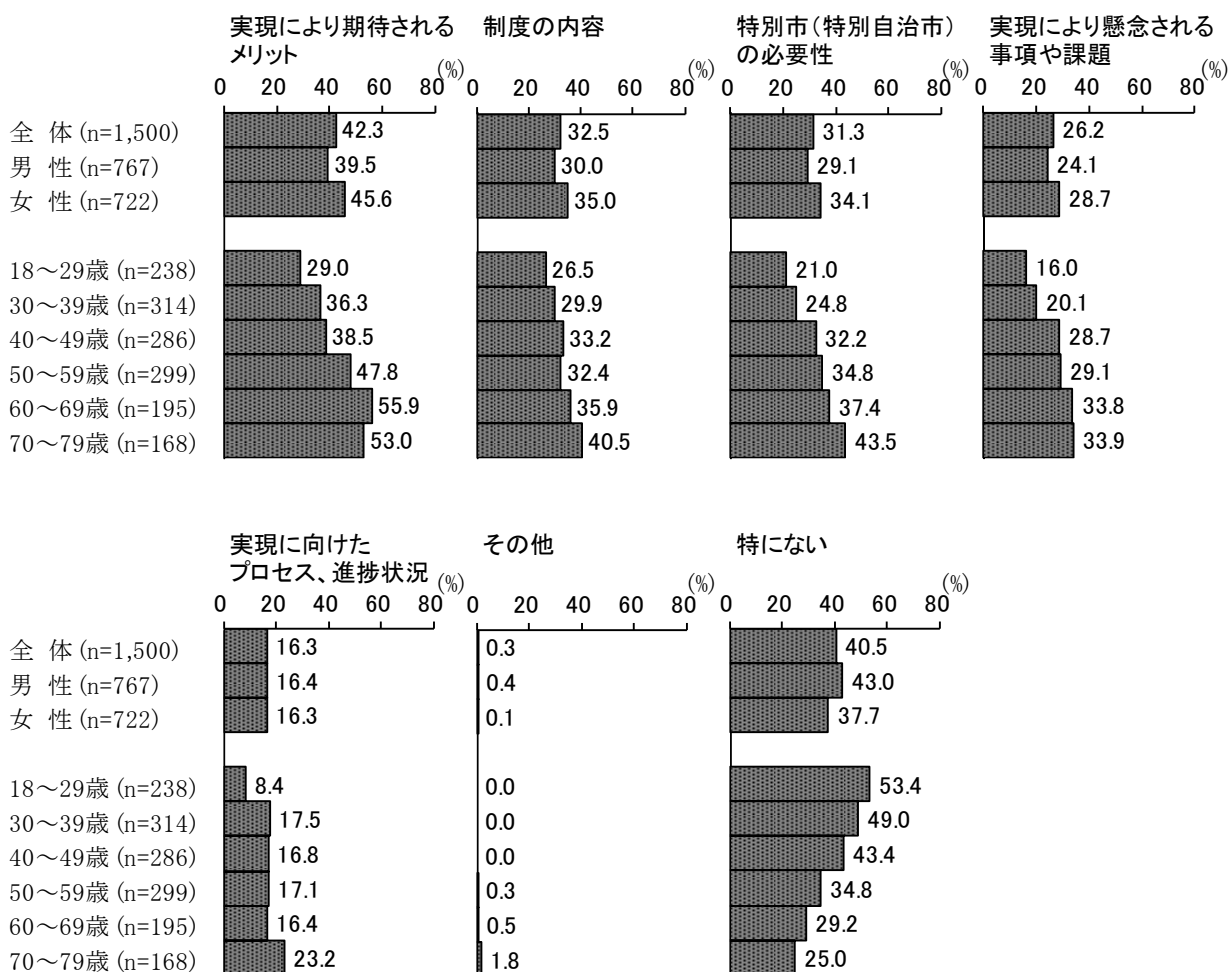
【図表 51】「特別市（特別自治市）」について知りたいこと（複数回答）



性別では、「実現により期待されるメリット」、「制度の内容」、「特別市（特別自治市）の必要性」は男性よりも女性の方が5ポイント以上高く、「特にない」は女性（37.7%）よりも男性（43.0%）の方が5.3ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「実現により期待されるメリット」、「制度の内容」、「特別市（特別自治市）の必要性」、「実現により懸念される事項や課題」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「特にない」は年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 52】「特別市（特別自治市）」について知りたいこと（複数回答）
（性別、年齢別）

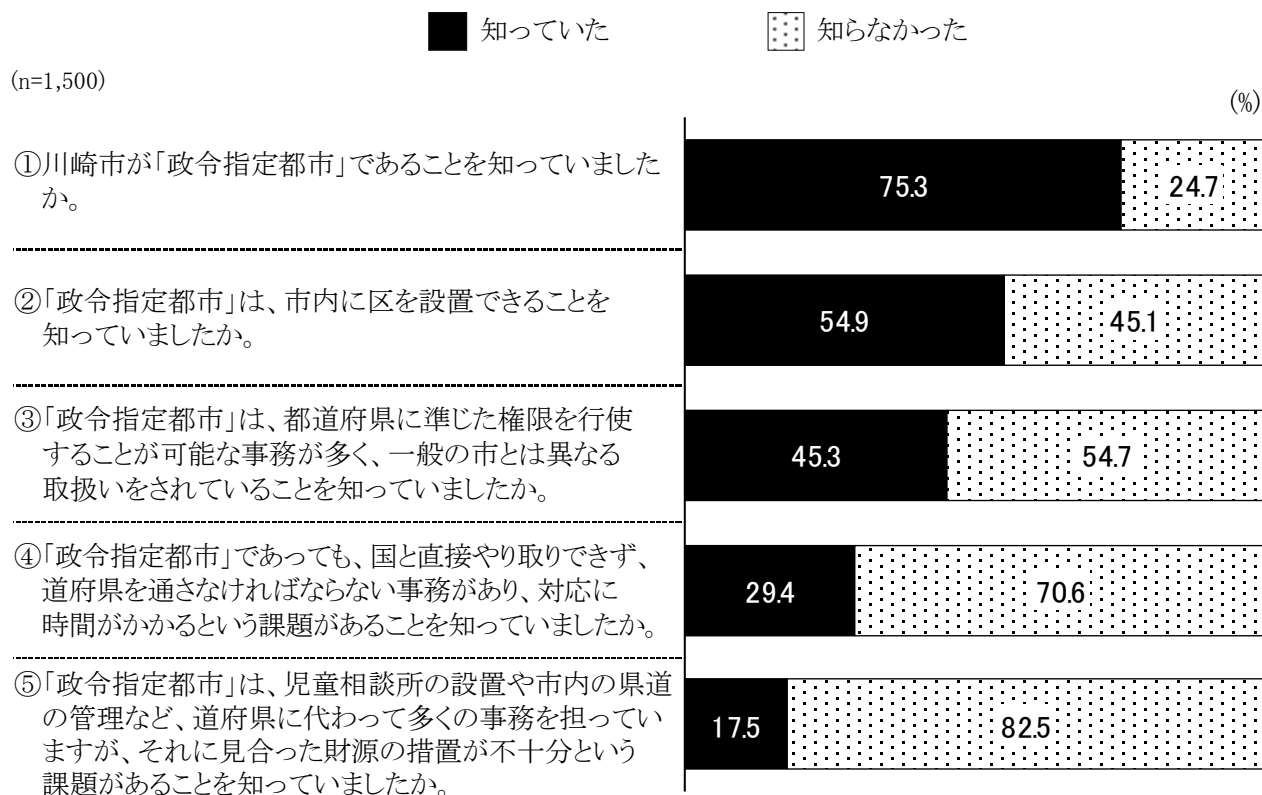


(4)「政令指定都市」について

Q20. 「政令指定都市」に関する質問にお答えください。

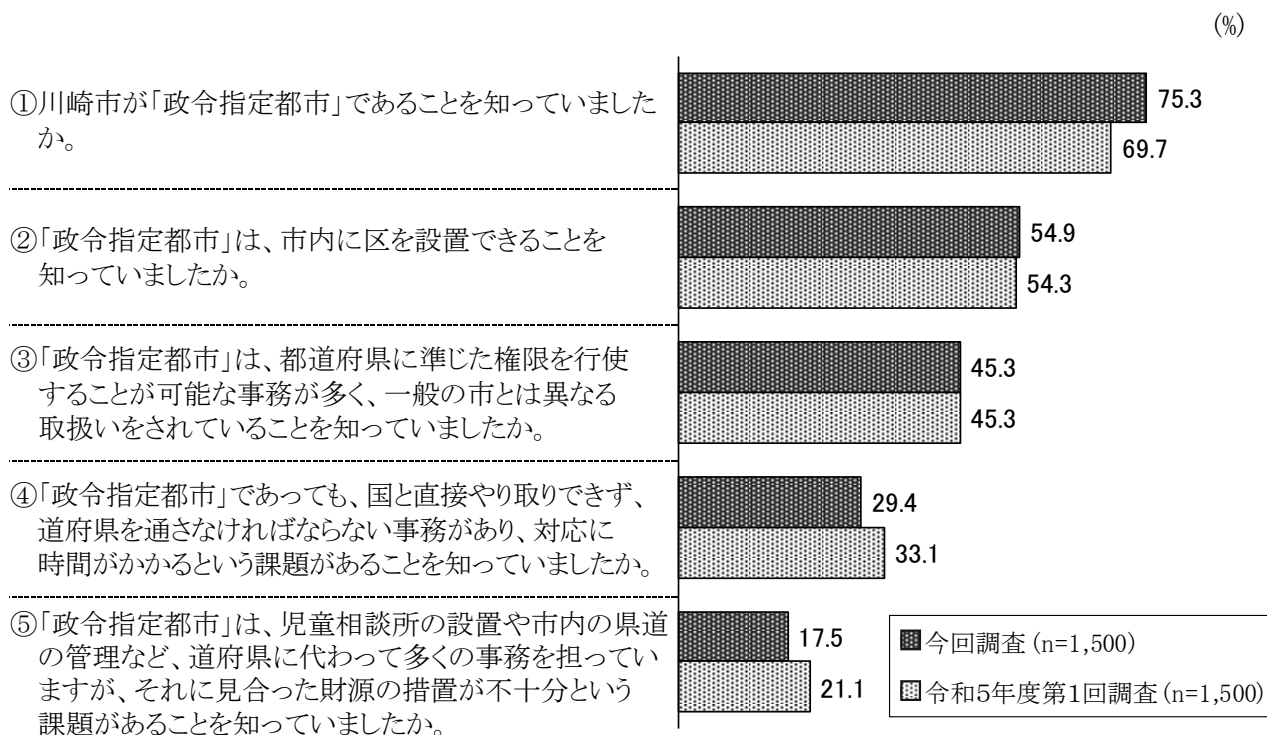
「知っていた」の割合は「川崎市が『政令指定都市』であることを知っていましたか。」が75.3%で最も高く、次いで、「『政令指定都市』は、市内に区を設置できることを知っていましたか。」(54.9%)、「『政令指定都市』は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。(例：児童相談所の設置など)」(45.3%)と続いている。

【図表 53】「政令指定都市」について



「知っていた」の割合を令和5（2023）年度第1回調査（インターネット調査）と比較すると、「川崎市が『政令指定都市』であることを知っていましたか。」は5.6ポイント上昇した。一方、「『政令指定都市』であっても、国と直接やり取りできず、道府県を通さなければならない事務があり、対応に時間がかかるという課題があることを知っていましたか。」は3.7ポイント減少、「『政令指定都市』は、児童相談所の設置や市内の県道の管理など、道府県に代わって多くの事務を担っていますが、それに見合った財源の措置が不十分という課題があることを知っていましたか。」は3.6ポイント減少している。

【図表 54】「政令指定都市」について（「知っていた」回答者）
（過去調査との比較）



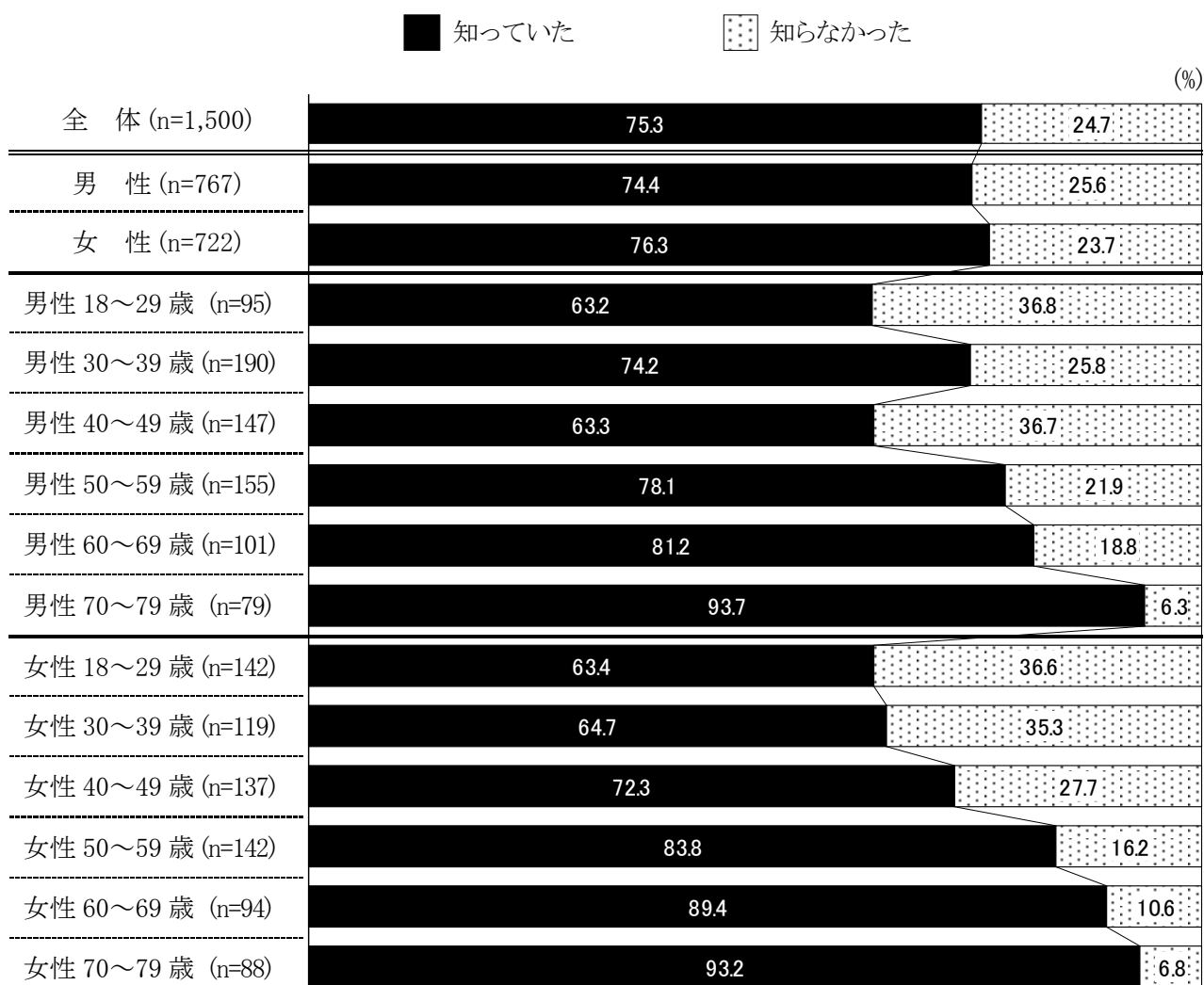
① 現在、川崎市も含め、横浜市や大阪市など人口の多い全国20の大都市が「政令指定都市」となっています。あなたは、川崎市が「政令指定都市」であることを知っていましたか。

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、男女ともにおおむね年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっている。

【図表 55】「政令指定都市」について（性別、性／年齢別）

〔 現在、川崎市も含め、横浜市や大阪市など人口の多い全国20の大都市が「政令指定都市」となっています。あなたは、川崎市が「政令指定都市」であることを知っていましたか。 〕



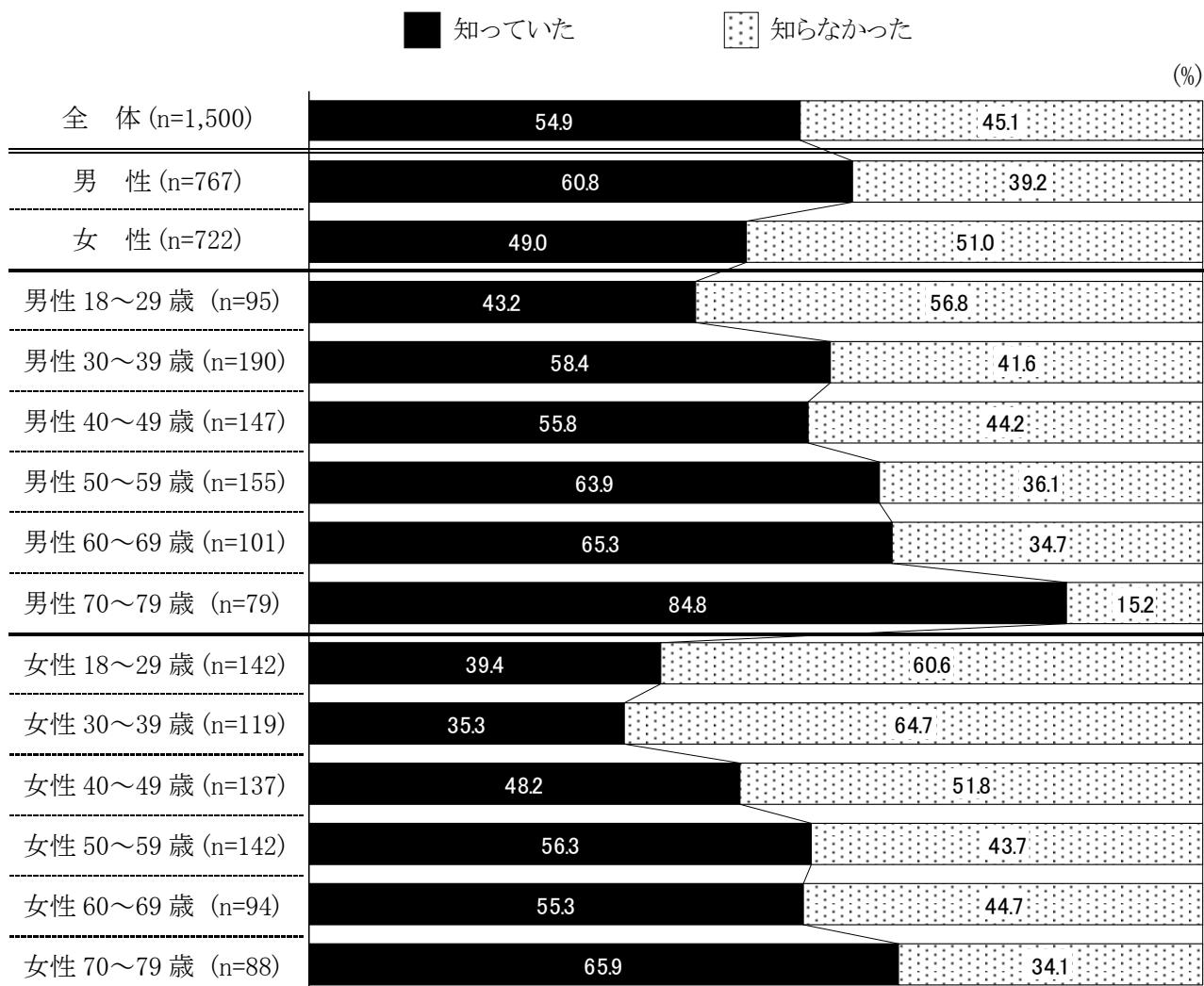
②「政令指定都市」は、市内に区を設置できることを知っていましたか。

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性（49.0%）よりも男性（60.8%）の方が 11.8 ポイント高い。

年齢別に見ると、一部を除き、男女ともにおおむね年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっている。

【図表 56】「政令指定都市」について（性別、性／年齢別）

〔「政令指定都市」は、市内に区を設置できることを知っていましたか。〕



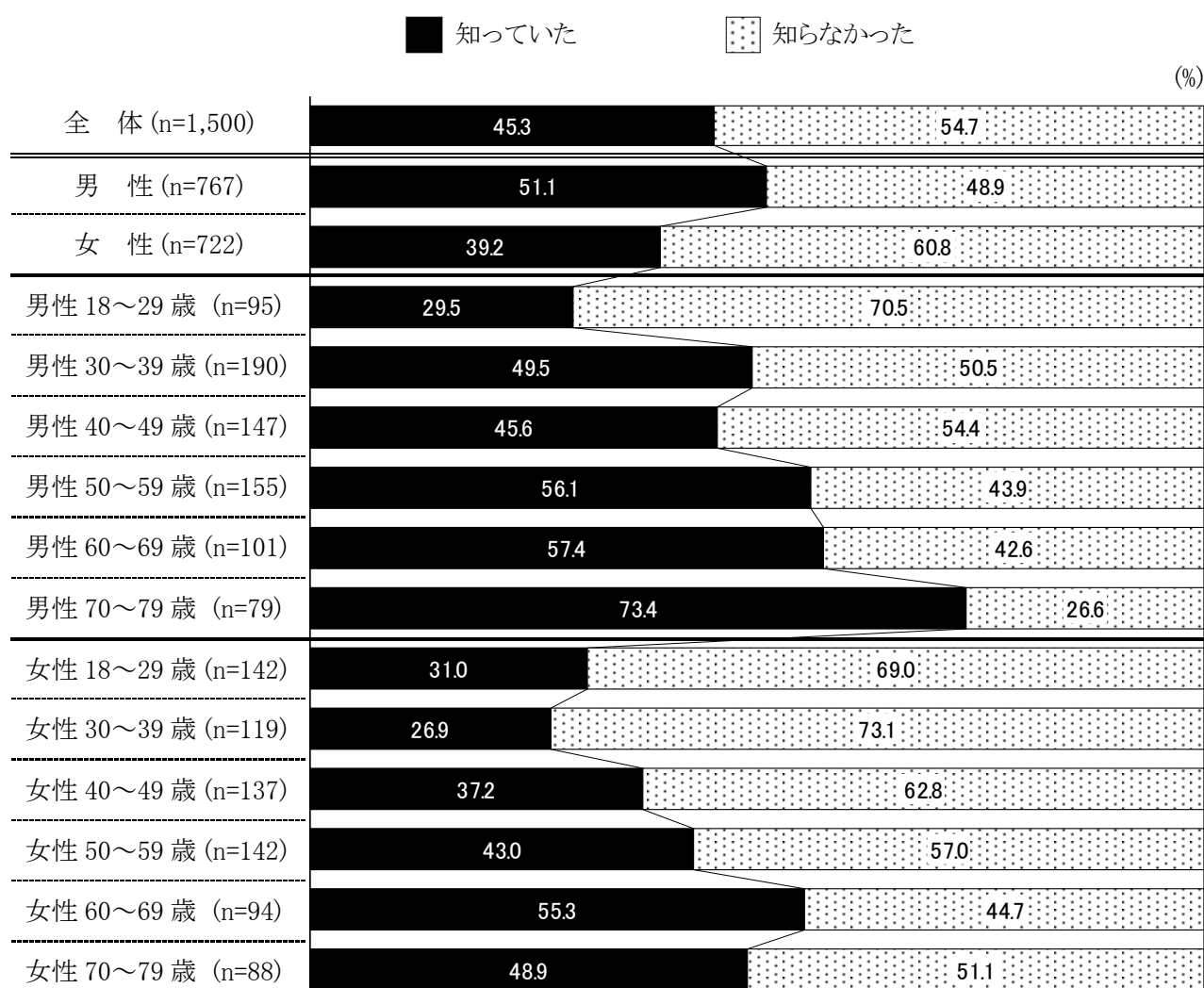
③「政令指定都市」は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。(例：児童相談所の設置など)

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性（39.2%）よりも男性（51.1%）の方が 11.9 ポイント高い。

年齢別に見ると、一部を除き、男女ともにおおむね年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっている。

【図表 57】「政令指定都市」について（性別、性／年齢別）

「政令指定都市」は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。(例：児童相談所の設置など)



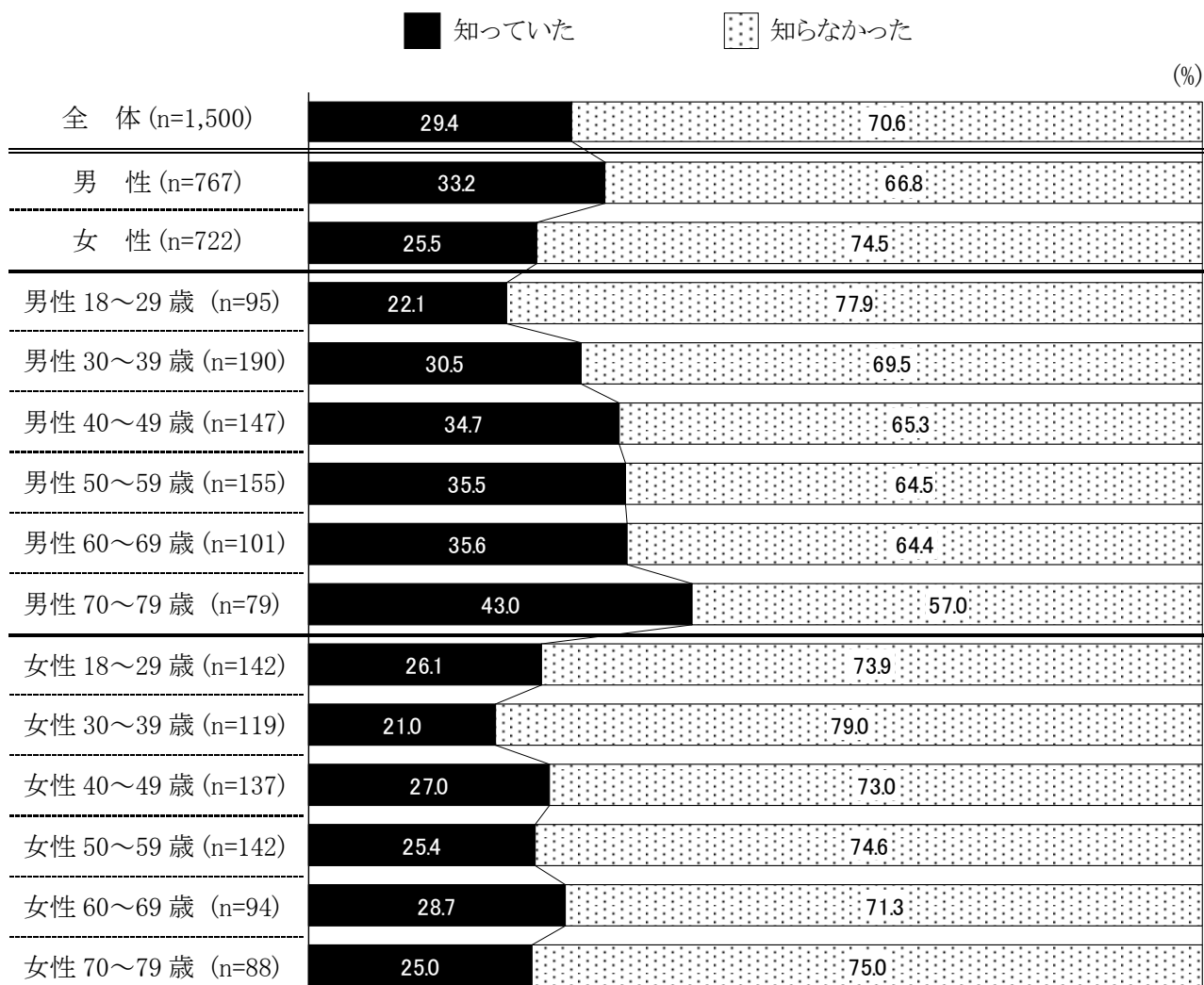
④「政令指定都市」であっても、国と直接やり取りできず、道府県を通さなければならない事務があり、対応に時間がかかるという課題があることを知っていましたか。(例:新型コロナウイルスワクチンの供給など)

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性（25.5%）よりも男性（33.2%）の方が7.7ポイント高い。

年齢別に見ると、「知っていた」の割合は、男性では30歳以上の年齢層で3割を超え、70～79歳（43.0%）が最も高くなっている。女性は全ての年齢層で3割を下回った。

【図表 58】「政令指定都市」について（性別、性／年齢別）

「政令指定都市」であっても、国と直接やり取りできず、道府県を通さなければならない事務があり、対応に時間がかかるという課題があることを知っていましたか。(例:新型コロナウイルスワクチンの供給など)



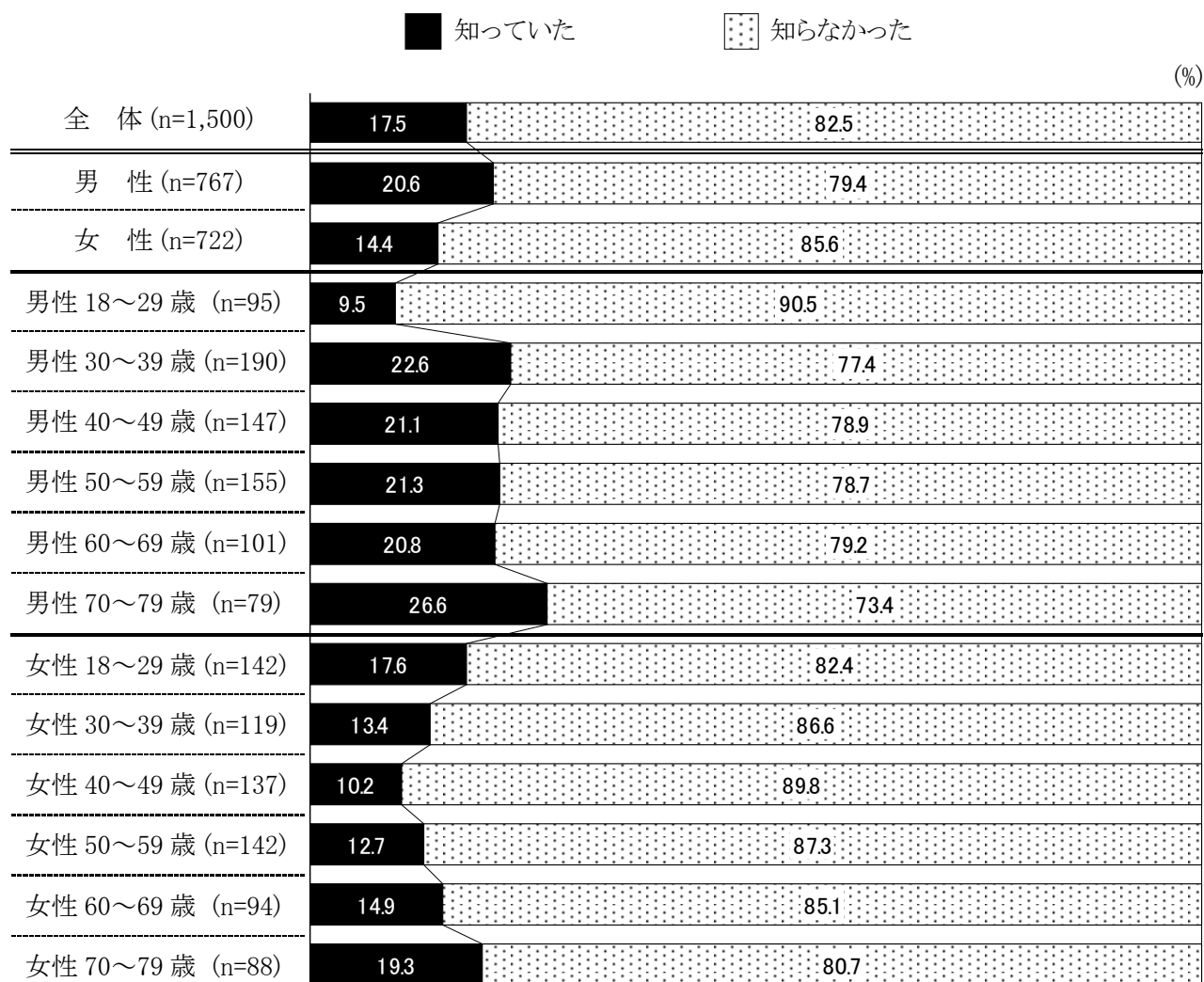
- ⑤「政令指定都市」は、児童相談所の設置や市内の県道の管理など、道府県に代わって多くの事務を担っていますが、それに見合った財源の措置が不十分という課題があることを知っていましたか。(川崎市の試算では、川崎市が県に代わって負担している事務の経費が年間で約288億円である一方、財源として確保される額は約45億円しかなく、約243億円が川崎市の負担となっています。※令和7年度予算に基づく概算)

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性(14.4%)よりも男性(20.6%)の方が6.2ポイント高い。

年齢別に見ると、「知っていた」の割合は、男性は30歳代以上の年齢層で2割を超え、女性は全ての年齢層で2割を下回り、男女ともに70～79歳が最も高くなっている。

【図表59】「政令指定都市」について(性別、性/年齢別)

「政令指定都市」は、児童相談所の設置や市内の県道の管理など、道府県に代わって多くの事務を担っていますが、それに見合った財源の措置が不十分という課題があることを知っていましたか。(川崎市の試算では、川崎市が県に代わって負担している事務の経費が年間で約288億円である一方、財源として確保される額は約45億円しかなく、約243億円が川崎市の負担となっています。※令和7年度予算に基づく概算)

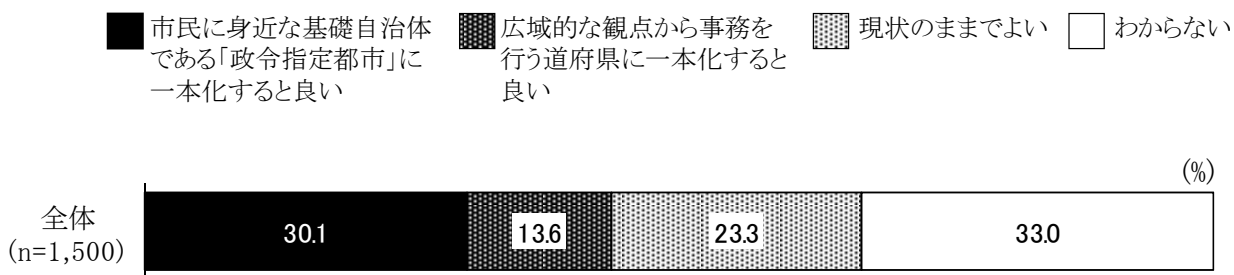


(5) 取組や事務の一本化について

Q21. 「政令指定都市」と道府県で同じような内容の取組や事務を実施していることがあります。今後、このような事務をどちらか一方にまとめるとしたら、あなたはどちらに一本化するとよいと思いますか。

「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」(30.1%)、「現状のままでよい」(23.3%)、「広域的な観点から事務を行う道府県に一本化すると良い」(13.6%)と続いている。一方、「わからない」(33.0%)が最も高くなっている。

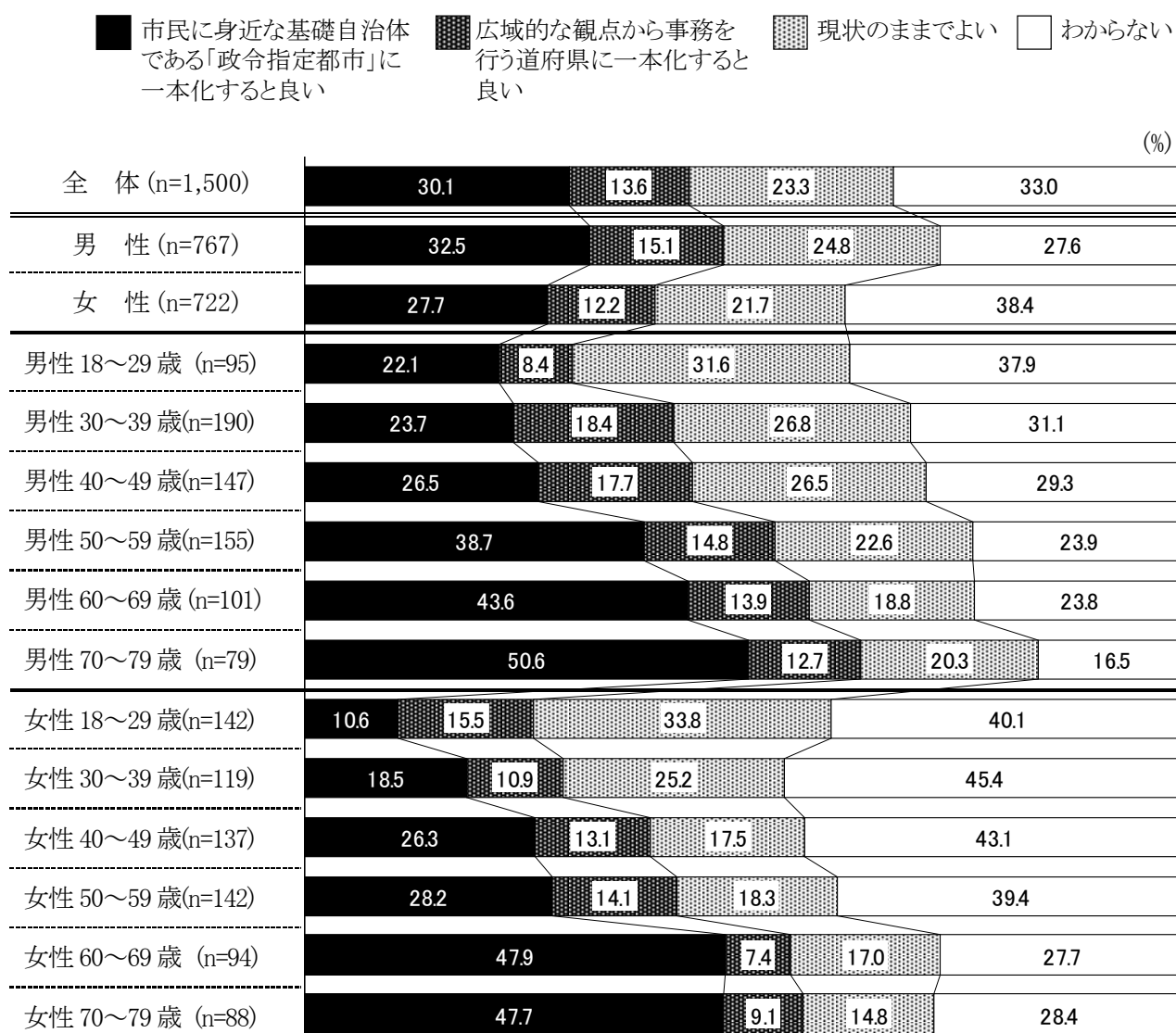
【図表 60】取組や事務の一本化について



性別に見ると、「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」は女性(27.7%)よりも男性(32.5%)の方が4.8ポイント高く、「わからない」は男性(27.6%)よりも女性(38.4%)の方が10.8ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」は、男女ともにおおむね年齢が上がるほど高く、60歳代以上の年齢層で4割を超えている。また、「わからない」は男性では18～29歳(37.9%)が最も高く、女性では30～39歳(45.4%)が最も高くなっている。

【図表 61】 取組や事務の一本化について（性別、性/年齢別）



Q17の「特別市（特別自治市）」の認知状況別に見ると、制度について知っている人ほど「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」の割合が高くなっており、「制度の内容について知っていた」と回答した人（45.5%）が最も高い。

【図表 62】 取組や事務の一本化について（「特別市（特別自治市）」の認知状況別）

